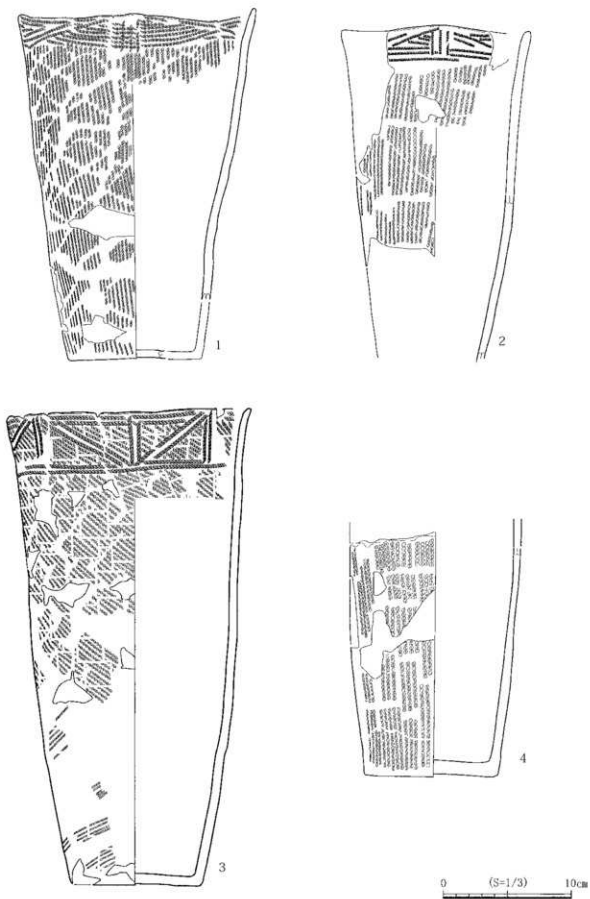
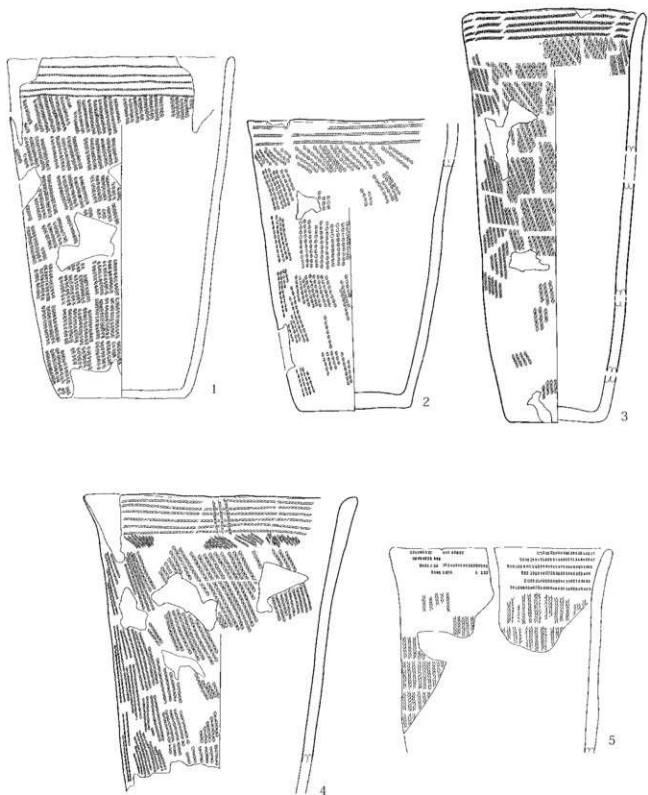


52図 縄文土器 (46)

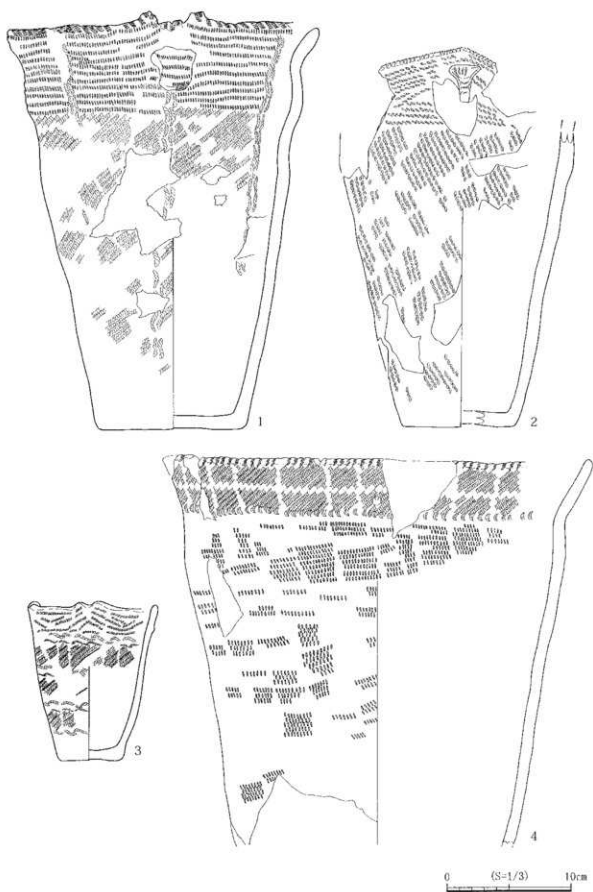


53図 縄文土器 (47)

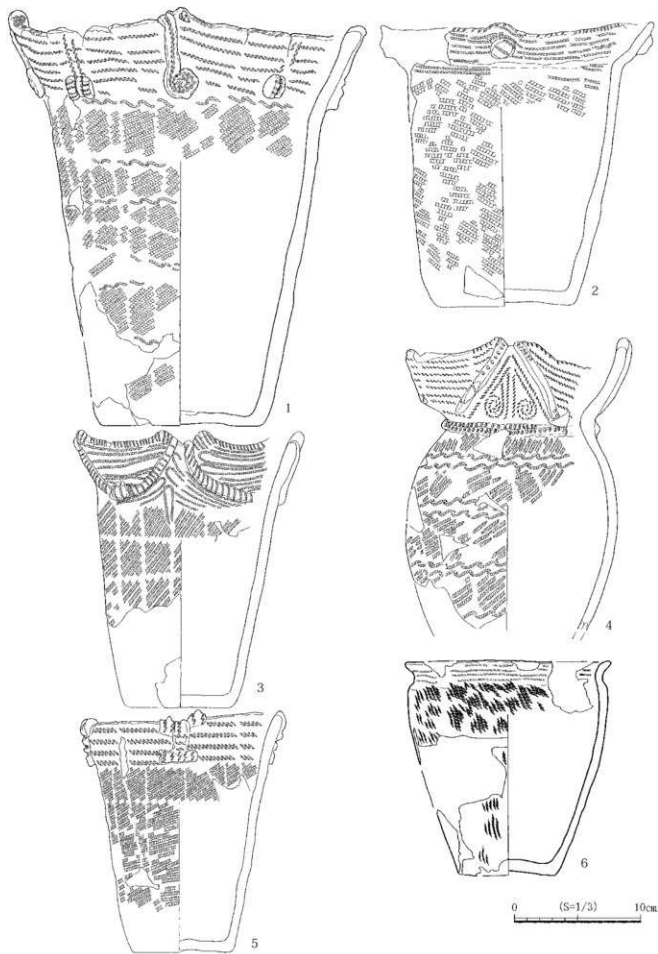


0 (S-1/3) 10cm

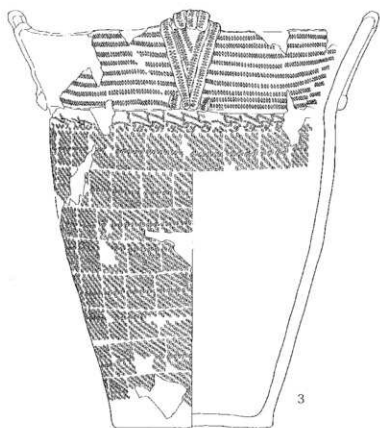
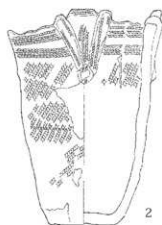
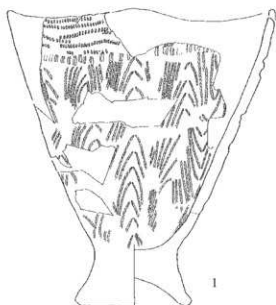
54図 縄文土器 (48)



55図 縄文土器 (49)

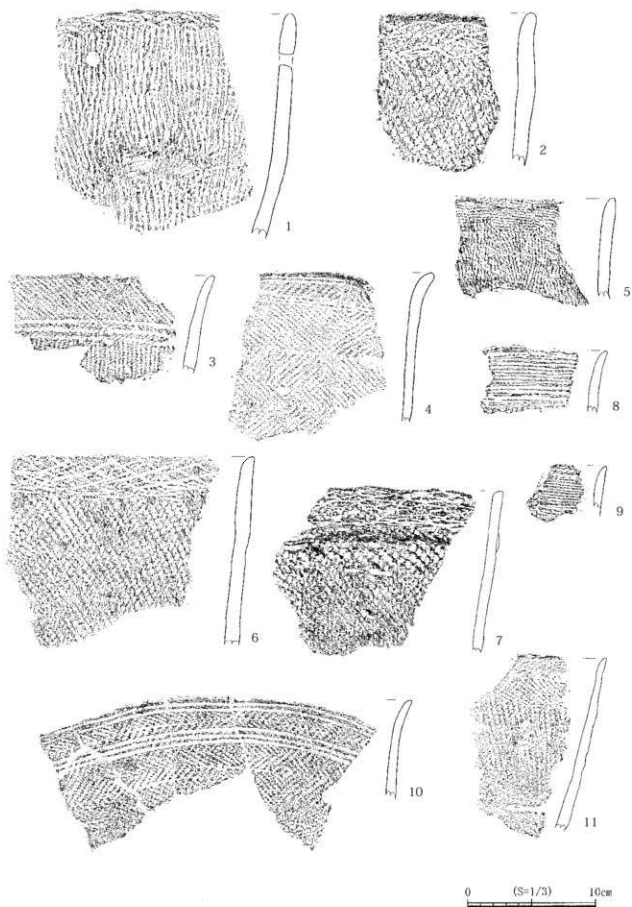


56図 縄文土器 (50)

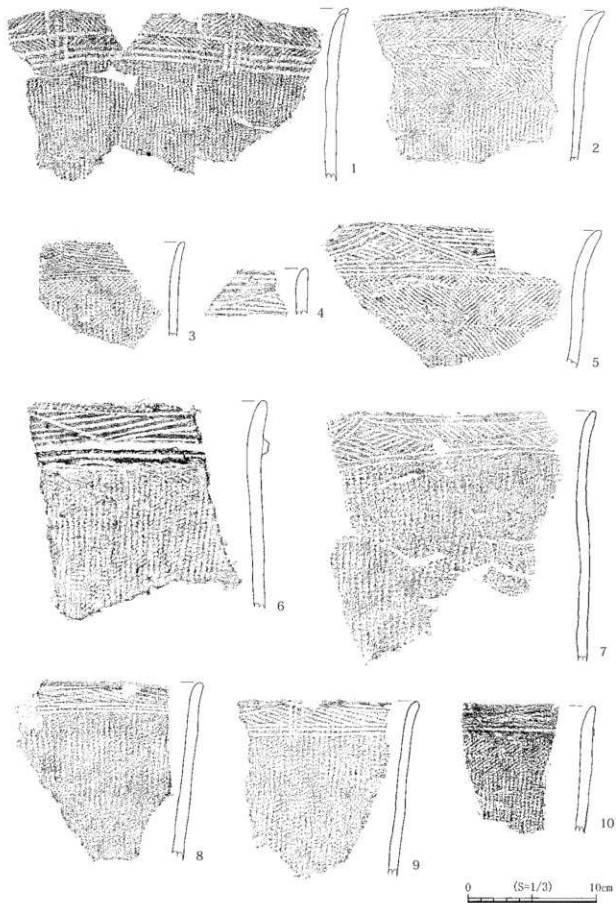


0 (S-1/3) 10cm

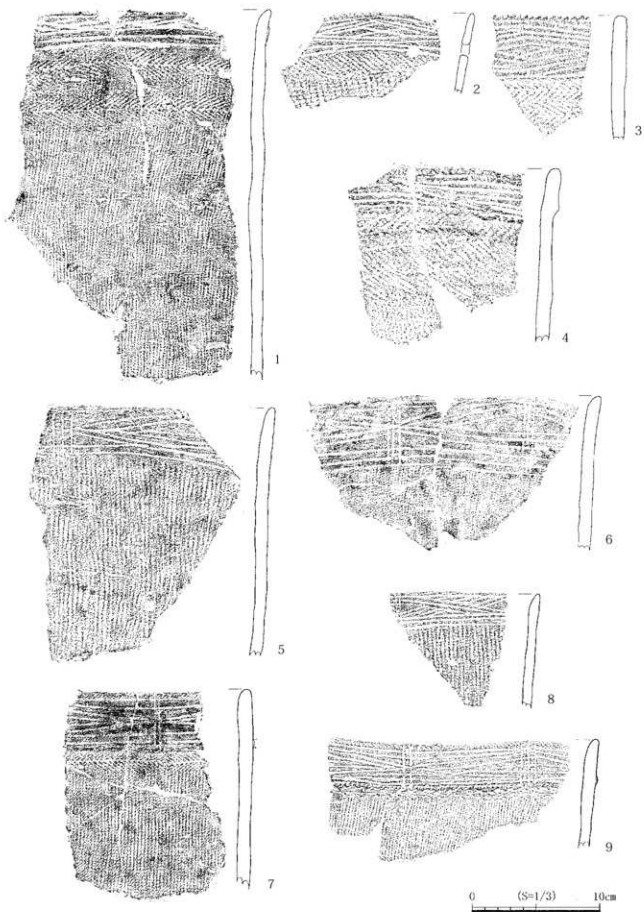
57図 縄文土器 (51)



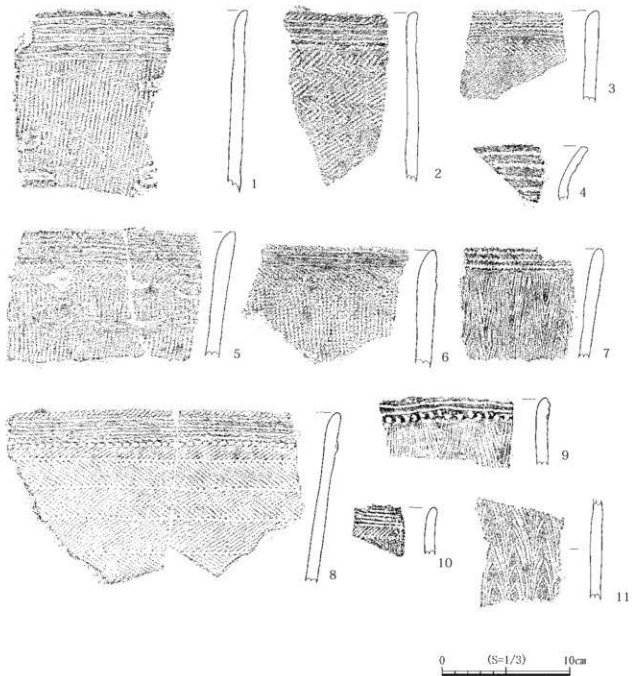
58圖 繩文土器 (52)



59図 縄文土器 (53)



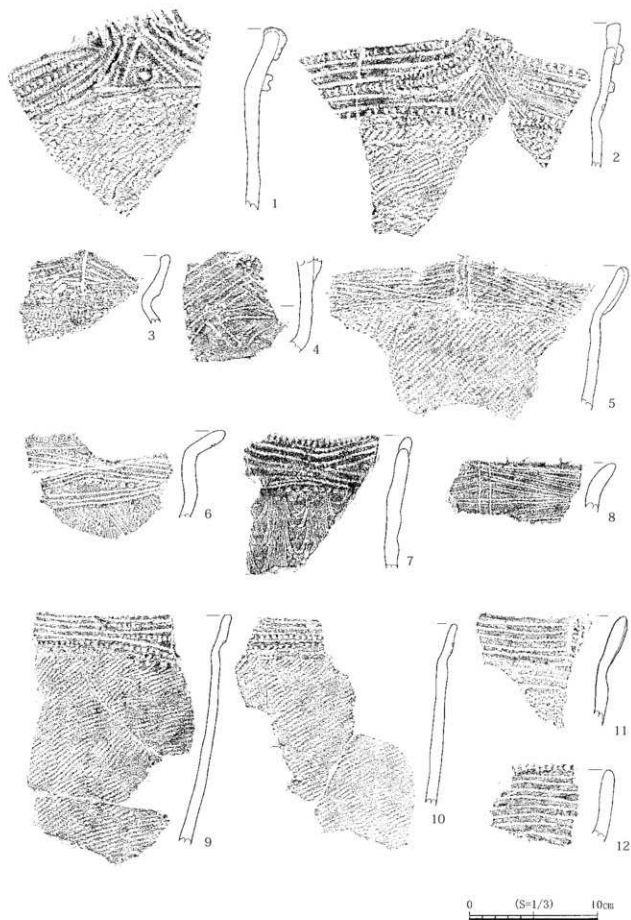
60図 縄文土器 (54)



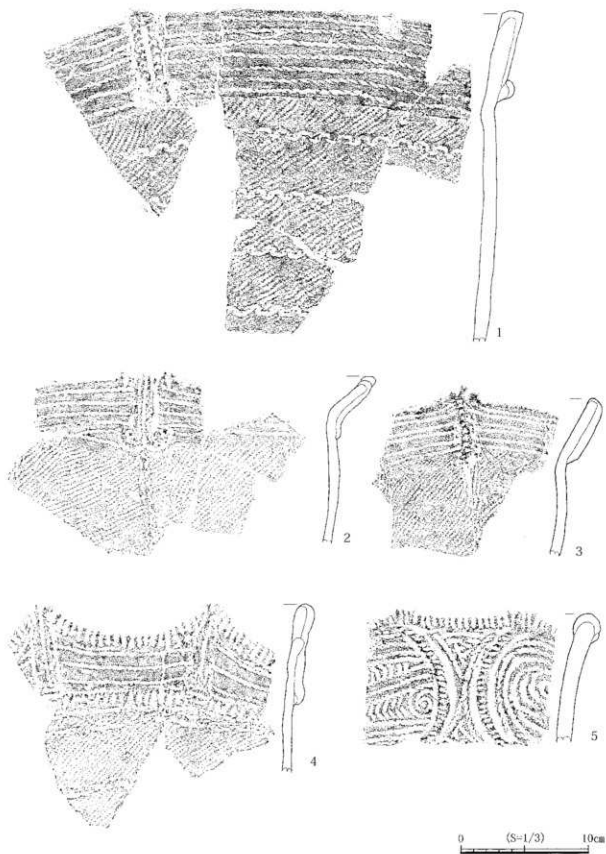
61図 縄文土器 (55)



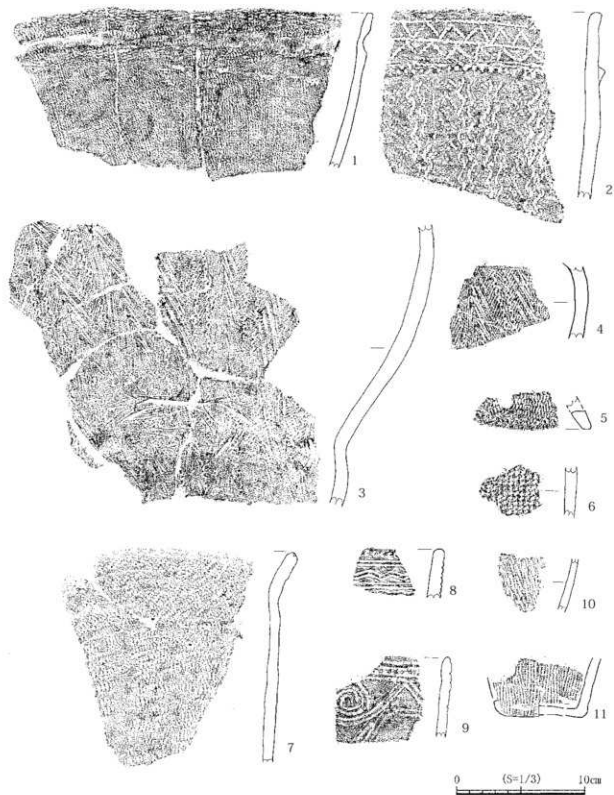
62図 縄文土器 (56)



63図 縄文土器 (57)



64図 縄文土器 (58)



65図 縄文土器 (59)

るもの、縄文の原体押圧のなされるものがある。胴部にはRLR、単軸絡条体1類、単軸絡条体5類があり、RLRが多い。上部が単軸絡条体5類、下部がRLRと文様を分けて施されているものもある(36図-2)。

4. 単軸絡条体6類が施されるもの(42図-1)

口縁部に単軸絡条体6類が施されるものである。頸部には低い隆帯が巡る。口縁部には口唇直下と口縁部下にRLR押圧が施され、胴部には隆帯直下にRLR押圧、RLRが施される。

5. 単軸絡条体6A類が施されるもの(43図-2、44図-4)

口縁部に単軸絡条体6A類が施されるものである。頸部への区画はあるものとなないものがあり、あるものは縄文原体の押圧である。胴部へはRL、RLRの縄文が施される。

6. 単軸絡条体2類が施されるもの(41図-3)

口縁部に単軸絡条体2類が施されるものである。頸部の区画はなく、胴部はRLRの縄文が施される。

6. 刺突が施されるもの(9図-4)

頸部に貫通孔列が巡るものである。口縁部は無文で、胴部にはRLRの縄文が施される。他の第Ⅱ群2・3類の器形とは異なり、貫通孔列のある頸部がくびれる特徴がある。

第Ⅱ群3類、円筒下層b式に含まれるもの

円筒下層b式としたものは9図-3、5、10図-5、6～15図-1～4、16図～34図、35図-3、6、36図-1、3、4、37図-4、38図～41図-2、41図-4、5、42図-2～43図-1、43図-3～44図-2、44図-4～45図、58図-3、7～9である。器形の特徴は、第Ⅱ群2・3類としたものよりもさらに縦長筒形を呈するようになる。口縁部は直線的に立ち上がるものと外反するものがある。

1. 口縁部文様帯に縄文が施されるもの(9図-5、10図-5、6、11図～15図-4、58図-3)

口縁部文様帯に縄文が施されるものである。LRとRLRがみられるが、RLRが主体的である。まれにRRLの直前段反捲りが施されるものもみられる。頸部は隆帯が巡るものや、縄文原体押圧がみられるが、隆帯のつけられるものは少なく、縄文原体押圧の施されるものが多い。口唇部下には縄文原体押圧の施されるものが多い。また、口縁部に縦位の縄文原体押圧を施すものがみられるようになる。この縦位の縄文原体押圧は、口縁部を分割するように4箇所に施されることが多い。波頂部のある場合は波頂部を有するものはその位置に対応して施される。胴部文様はRLRを斜めに回転させて縦位の縄文を表現するものや単軸絡条体1類を縦位に施されるものがみられる。また胴部上部はRLR、下部は単軸絡条体1類(12図-1)、上部はRLR、下部はLRが施される(15図-4)など、胴部で異なる文様を使い分けている例もみられる。

2. 単軸絡条体1類が施されるもの(16図～34図、58図-8、9)

口縁部文様帯に単軸絡条体1類が横位に施されるものである。1段と2段の単軸絡条体が見られる。頸部には隆帯がつけられるものと縄文原体押圧の施されるものがある。後者の縄文原体押圧の施されるものが主体的である。隆帯は厚みのあるものが少ない。口唇部下には横位に縄文原体押圧の施されるものとそうでないものがみられるが、前者の方が多くみられる。縦位に縄文原体押圧で区画が施されるものもみられる。胴部には口縁部に施される単軸絡条体1類が縦位に施されるものが多いが、複節の単軸絡条体1類やRLRの横位回転、RLRの縄文を斜めに回転させて縦位の縄文を表現するものもある。まれに多軸絡条体が施されるものもみられる。単軸絡条体1類が施されるものは、下層b式でも出土量が非常に多く主体を占める。

3. 単軸絡条体5類が施されるもの(35図-3、6、36図-1、36図-3、4、37図-4～41図-2、45図-3、58図-7)

口縁部文様帯に網目状の文様を表現した単軸絡条体5類が施されるものである。頸部には隆帯がつけられるものと縄文原体押圧の施されるもの、何も施されないものがあり、縄文原体押圧の施される

ものが多くみられる。隆帯上には刺突列が巡るもの、縄文、単軸絡条体の施されるもの、無文のものがある。口唇部下には縄文原体押圧のあるものとないものがあり、前者が主体的である。口唇部下に縄文原体押圧のないものは頸部にも区画としての押圧はみられない。縄文原体押圧による縦位の区画が施されるものもみられる。胴部文様はRLR、単軸絡条体1類、5類がみられる。口縁部と同じ単軸絡条体5類が胴部に施される例は少ない。付加条の縄文が施されるものもみられる(39図-2、40図-1)。この単軸絡条体5類が施されるタイプも下層b式の中で出土量が多い。

4. 単軸絡条体6類が施されるもの(41図-4、5、42図-2~4、58図-7)

口縁部文様帯に網目状の文様を表現した単軸絡条体6類が施されるものである。頸部には隆帯がつけられるものと縄文原体押圧の施されるものがある。隆帯上には縄文原体押圧が施されるものや無文のものがある。頸部に隆帯のつけられるものは少ない。口唇部下に縄文原体押圧の区画が施されるものや口縁部に縦位の縄文原体押圧による区画が施されるものもみられる。胴部にはRLR、単軸絡条体、付加条縄文が施される。

6. 単軸絡条体6A類が施されるもの(43図-1、3、4、6~44図-1~45図-2)

口縁部文様帯に単軸絡条体6A類が施されるものである。頸部には隆帯のつけられるもの、縄文原体押圧のものがあり、口唇部下には縄文原体押圧があるものとないものがある。また、縦位の縄文原体押圧がみられるものもある。胴部には単軸絡条体1類、RLR、RLなどが施される。37図5は胴部に単軸絡条体1A類の木目状の文様が施されるが、津軽地域では少ない。

7. 多軸絡条体が施されるもの(45図-4)

口縁部、胴部ともに多軸絡条体が施されるものである。頸部に隆帯はなく、口唇部下、頸部には縄文原体押圧が施される。口縁部に縦位の縄文原体押圧による区画もみられる。胴部下には多軸絡条体ではなく、RLRを斜回転させて縦位の文様が施されている。多軸絡条体は南部地域の円筒下層d1式に一定量みられる文様である。

第II群4類、円筒下層c式に含まれるもの

1. 羽状縄文が施されるもの(46図~49図)

口縁部文様帯に結束第1種を用いて羽状縄文が施されるものである。LRとRLの組み合わせが多いが、LRやRLに反撚り縄を組み合わせたものもみられる(46図-2)。口縁部には羽状縄文は1段のみのものが多いがまれに2段表現されるものもある(47図-4)。口唇部下に縄文原体押圧で区画が施されるもの、口縁部に縦位に区画の施されるものもある。頸部に隆帯のみられるものは1点のみであり、その隆帯もわずかな盛り上がりのみみられるにすぎない(46図-4)。胴部にはRLR、単軸絡条体1類、RLRの付加条縄文が施される。胴部の上部と下部で文様表現を変えるものもある(46図-6)。

2. 縄文原体、単軸絡条体の押圧が施されるもの(50図~53図-3、54図)

口縁部に縄文原体や単軸絡条体の押圧で幾何学文が施されるものである。幾何学文は菱形、山形、平行線の3種類がある。口唇部下に縄文原体押圧の区画が横位に施されるものはほとんどない。頸部に隆帯のあるものはない。口縁部には縄文原体の押圧で縦位の区画をとまうものがある。胴部文様はRLRを斜め回転し縦位の文様が施されるものが多いが、単軸絡条体1類もみられる。頸部下に羽状

縄文を施すものがみられ、1段と2段のものがある。

第II群5類1、円筒下層d1式に含まれるもの

1. 縄文原体、単軸絡条体の押圧が施されるもの（59図-8～60図-1、9、61図-5～11）

口縁部に縄文原体や単軸絡条体で幾何学文が施されるものである。上記の円筒上層cに含まれる同様の幾何学文が施されるものよりも口縁部の幅が狭く、全体の器形がどっしりとしたバケツ形を呈するものが多い。口縁部の幾何学文は菱形、山形、平行線の3種類であり、円筒下層c式期に施されている幾何学文と同様の形態である。縦位に区画する縄文原体の押圧が施されるものもある。胴部には結束第1種の羽状縄文や結節回転文、単軸絡条体1類、1A類が施される。頸部には刺突列が施されるものもある。頸部下には斜縄文や羽状縄文が施されるものもある。本類は下層d1式の主体である。

第II群5類2 円筒下層d2式（55図-1～57図-2、62図～65図-7、10、11）

円筒下層d2式としたものは、下層a～d1式の縦長のバケツ形主体の器形から、口縁部が大きく開く、頸部がくびれる、台付などバリエーションが豊富になる。また口縁部に粘土紐で立体的な装飾を加えるようになる。

1. 口頸部に幾何学的な絡条体あるいは押圧縄文が施されるもの。細い粘土紐が貼り付けられるものもある。（55図-2、3、57図-1、62図-2、

4～63図-10、64図-5）。

57図-1は、胴部に単軸絡状体第1A類が施される。

2. 口頸部に、縄文原体押圧が横走するもの（55図-1、56図-1～6、62図-1、3、64図-1～4）。

4単位の突起下に粘土紐が垂下したり、円形の貼付けがなされるものがある（56図-1～5）。

56図-4は、逆V字型の垂下する粘土紐間に幾何学のおよび渦巻状の縄文押圧が施される。55図-1および56図-6は単軸絡状体1種の押圧である。

第II群5類・第III群2類～円筒下層d2式・円筒上層a式（57図-3、4、63図-4、64図-4、65図-2、66図-1～68図-1）

1. 口頸部に縄文原体押圧が横走り、突起下にV字形隆帯が付されるもの（57図-3、4）。

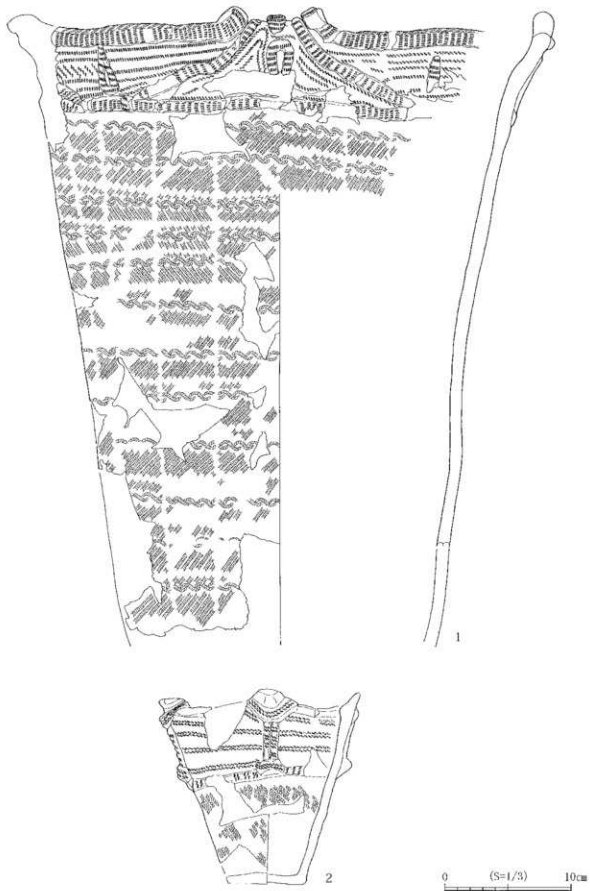
57図-3は、胴部に同一種原体の第一種結束縄文が施される。57図-4のみ頸部に粘土紐隆帯が巡る。

2. 口縁部に横方向の縄文原体押圧が施され、突起下に1条の粘土紐隆帯が付されるもの（66図-2、68図-1）

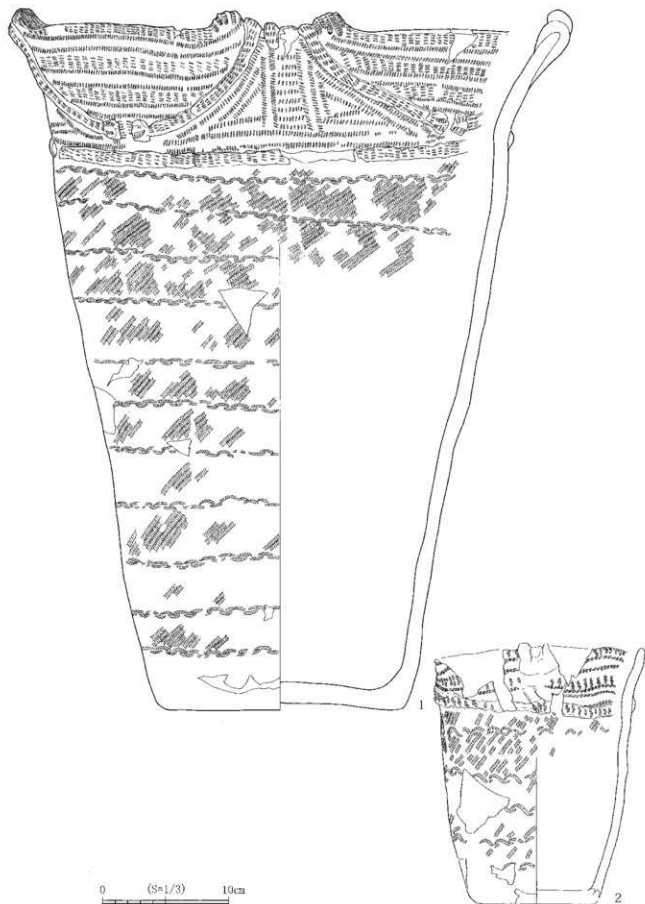
いずれも口頸部文様帯下部の粘土紐隆帯が1周巡る。68図-1は横走する縄文押圧間を縦方向の短い刺突列で充填する。

3. 口縁部の二又低突起から粘土紐が縦方向および斜め方向に垂下する大型のもの（66図-1、67図-1）。

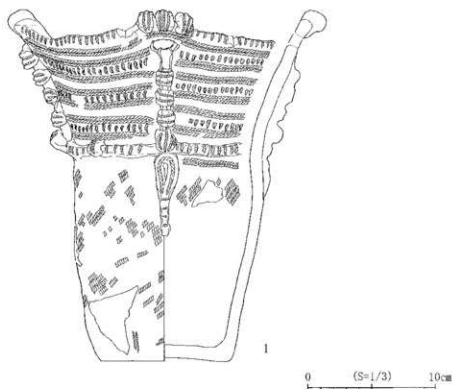
口頸部文様帯は、突起間は横方向の縄文押圧間に短い縦方向の押圧が充填される。突起下の「ハ」の字状の粘土紐隆帯内は、隆帯形状に沿って三角形の原体押圧が施される。胴部は単節斜縄文と1段の



66図 縄文土器 (60)



67図 縄文土器 (61)



68図 縄文土器 (62)

縄の結節あるいは結束部の回転文が施される。

第II群6類 (62図-8・9)

時期は特定できないが、前期末葉に位置づけられるものである。56-8・9とも沈線や刺突でジグザグや刺突列、渦巻が表現される。

(岩田 安之)

中期前半 (円筒上層式土器)

第III群1類 円筒上層a式 (69図-1~86図-2, 141図-4~7, 142図-1~143図-2)

1. 口頭部に縄文原体押圧が横走するもの (69図-1~70図-1)。

突起下に縦方向の粘土紐隆帯が付される。69図-1は半円状の隆帯が組み合わせられ、69図-2は「3」字形を呈する。いずれも口頭部文様帯下に粘土紐が1周巡り、口縁肥厚部には縦方向に密に縄文が押圧され、胴部は69図-1・2は単節斜縄文と結節回転文、69図-3・70図-1には羽状縄文が施される。

2. 口頭部に縄文原体押圧が横走し、その間に短い縦方向の原体押圧が施されるもの (70図-2~73図-3, 74図-2, 141図-4)。

突起下に1条の縦走粘土紐 (71図-1)、逆「U」字状粘土紐 (70図-3)、逆「C」字状粘土紐 (72図-1)、「V」字状粘土紐 (73図-1)、橋状把手 (71図-2, 72図-4, 73図-2) が付され、胴部は単節斜縄文、同一種原体の結束第1種、羽状縄文が見られる。72図-1はLRとRLRの段違い縄文による羽状縄文である。

3. 口頭部に縄文原体押圧が横走し、その間に羽状を呈する短い斜め方向の原体押圧が施されるもの (75図-1~77図-1)。

突起下に1条あるいは2条の粘土紐が縦走するもの (75図-1~4)、「8」字状 (76図-1)、「X」字状 (77

図-1)を呈する粘土紐が付されるものがある。粘土紐上は密に縄文原体が押圧されるものが多く、胴部には羽状縄文が施されるものが多い。

4. 口頭部に、波状の貼付けあるいは縄文原体押圧が施されるもの(74図-1、77図-2、73-2、142図-1・7、143図-2)。

横方向に波状の粘土紐隆帯が貼付されるもの(74図-1、79図-2)、2条の異種の1段の縄が波状に押圧されるもの(77図-2)がある。79図-2はやや新しい時期の可能性もある。

5. 口頭部に曲線模様の縄文原体押圧が施されるもの(77図-3～78図-1)

円形を成す原体押圧(78図-1)や上下の横走原体押圧間に長い馬蹄形状の押圧が施されるもの(77図-5・6)がある。

6. 口頭部文様帯に鋸歯状の縄文原体押圧が施されるもの(80図-1～86図-2、142図-2～6、143図-1)。

80図-5は縦方向の短い原体押圧と共存し、やや古手の様相を示す。鋸歯状原体押圧は1段のもの(80図-1～82図-3、85図-1、86図-2)と上下に重層するもの(82図-4～84図-1、86図-1)がある。81図-2は鋸歯状押圧は1段であるが、その上位に逆「U」字状貼付けが連続して付される。1段のものの突起のほうが小さく単純な傾向にあり、2段のものの突起が大型化し、複雑化している。粘土紐上にはいずれも密に縄文原体が押圧され、胴部には羽状縄文が盛行する。

第Ⅲ群1類・第Ⅲ群2類 円筒上層a式・円筒上層b式(87図-1～4)

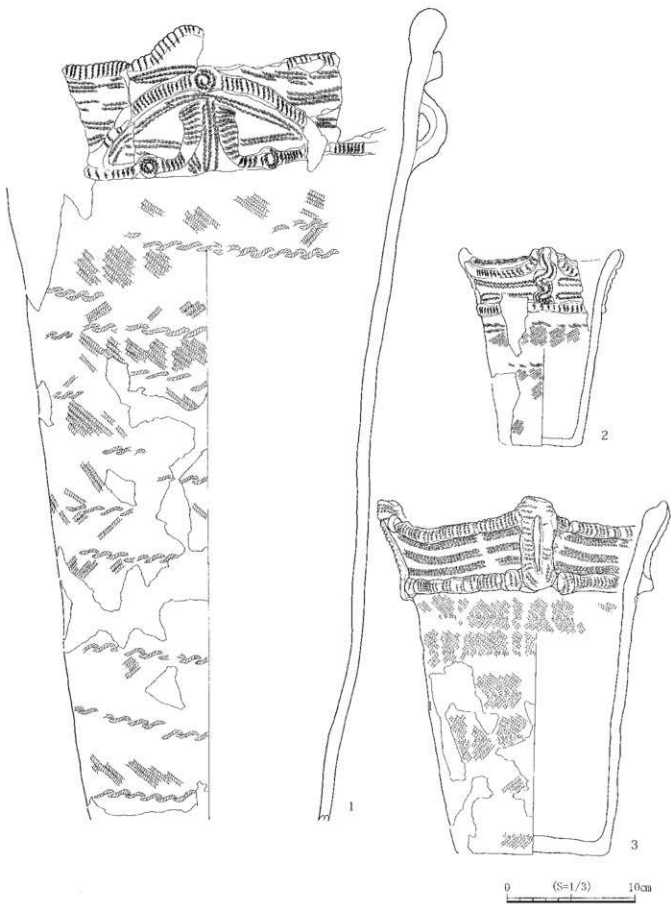
口頭部文様帯に鋸歯状の縄文原体押圧が施され、主に突起下の粘土紐間に馬蹄形状の縄文原体押圧が施される。87図-1～3は、突起下粘土紐間に縦方向に馬蹄形状の押圧が連続する。87図-4は左側が開口する逆「C」字状を呈する。従来、鋸歯状押圧が円筒上層a式、馬蹄形状押圧が上層b式のメルクマールとされるが、両者が並存する土器の出土例、突起や隆帯の複雑化や他の特徴も加味し、時期決定できる可能性が『三内丸山遺跡35』で小笠原雅行によって述べられている。

第Ⅲ群2類 円筒上層b式(88図-1～95図-5、144図-1～145図-3)

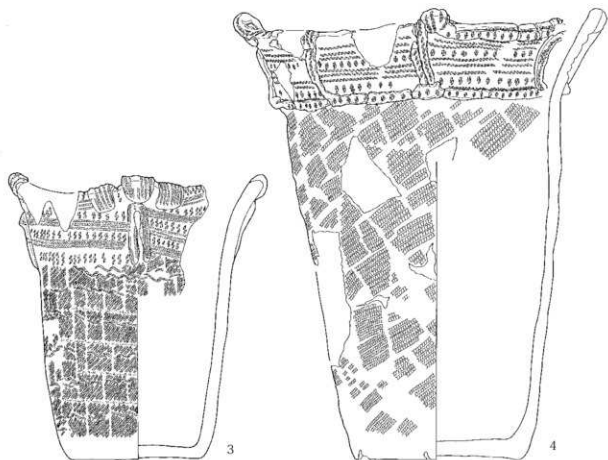
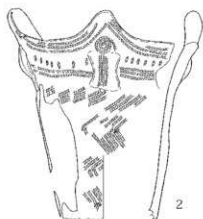
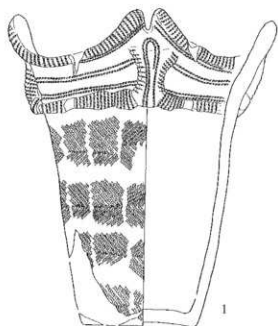
馬蹄形状の縄文原体押圧が施されるものをここに分類した。また88図-2のみ古手の要素である鋸歯状縄文原体押圧と工具による馬蹄形状の刺突が並存する。この段階に至り、突起下から縦方向に垂下する粘土紐隆帯の基本が崩れだし、粘土紐隆帯が横方向に展開するものが見られる(90図-2、91図-3、92図-1～4、145図-3)。また平坦口縁直下に波状の粘土紐隆帯が横位に連続するもの(93図-1・2、94図-1、95図-3・4)も特徴的である。突起や粘土紐貼付けは、小型・単純なものから大型化・複雑化するものが新相を示すようである。

第Ⅲ群3類 円筒上層c式(95図-6～101図-4、146図-1～151図-5)

工具による刺突が施されるものをここに分類した。前段階に比して、さらに口頭部文様帯の粘土紐隆帯が横方向に展開するものが多くなる。一部、96図-3のように隆帯間に横方向の縄文原体押圧が施される古手の様相も認められる。文様帯が胴部中位以下まで延びるものも多く見られ、器形も口徑に比して、高さが低いものも多く、円筒土器的様相の崩れが見られる段階とも言えよう。99図-4

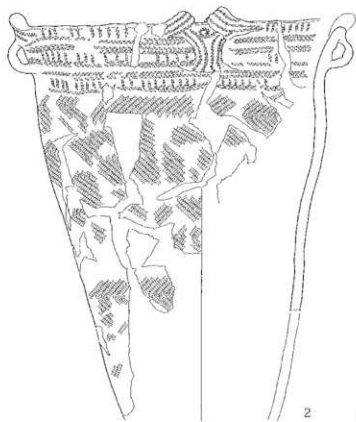
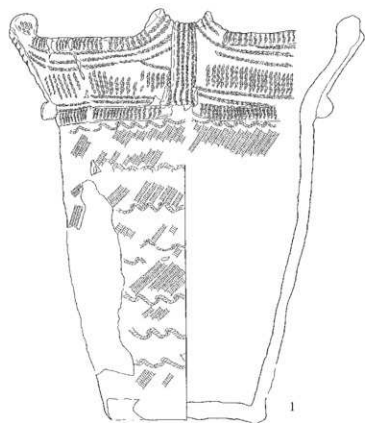


69圖 縄文土器 (63)



0 (S=1/3) 10cm

70図 縄文土器 (64)

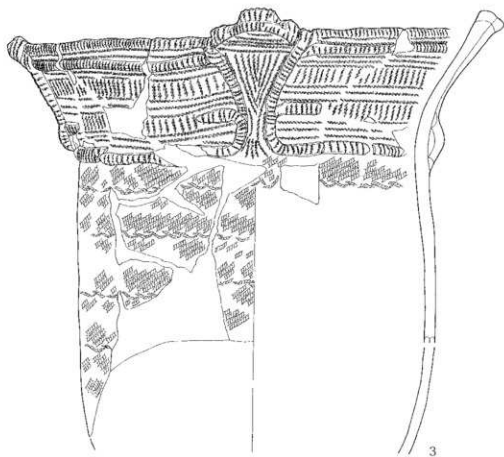
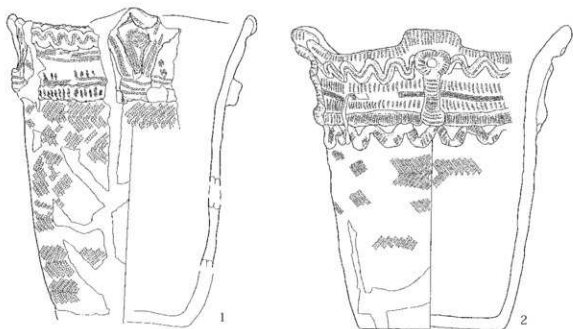


0 (S=1/3) 10cm

71図 縄文土器 (65)

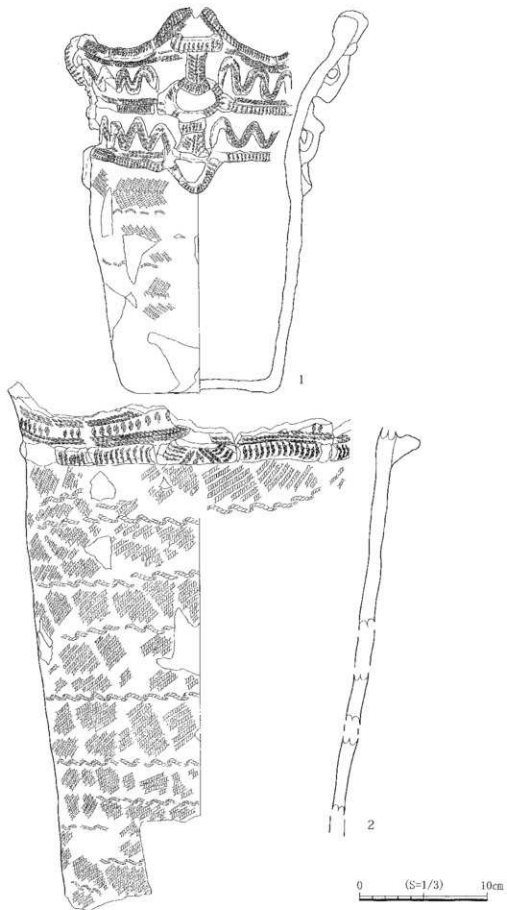


72図 縄文土器 (66)



0 (S-1/3) 10cm

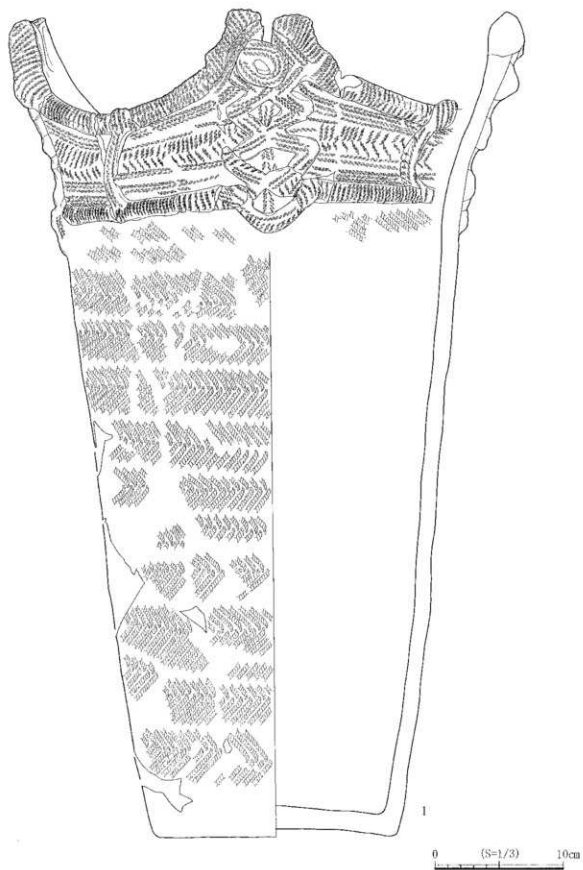
73図 縄文土器 (67)



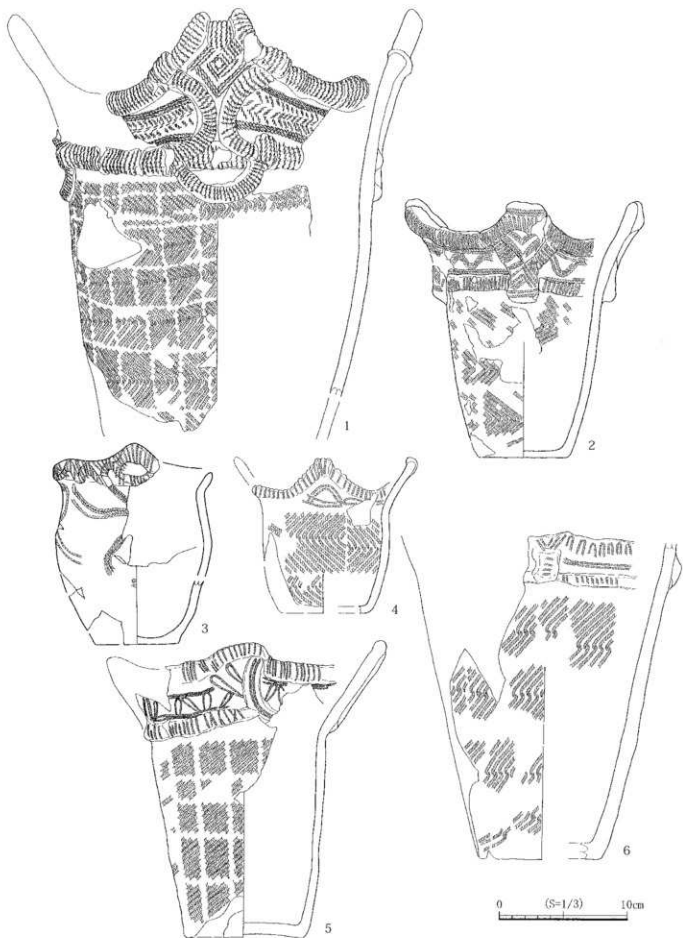
74図 縄文土器 (68)



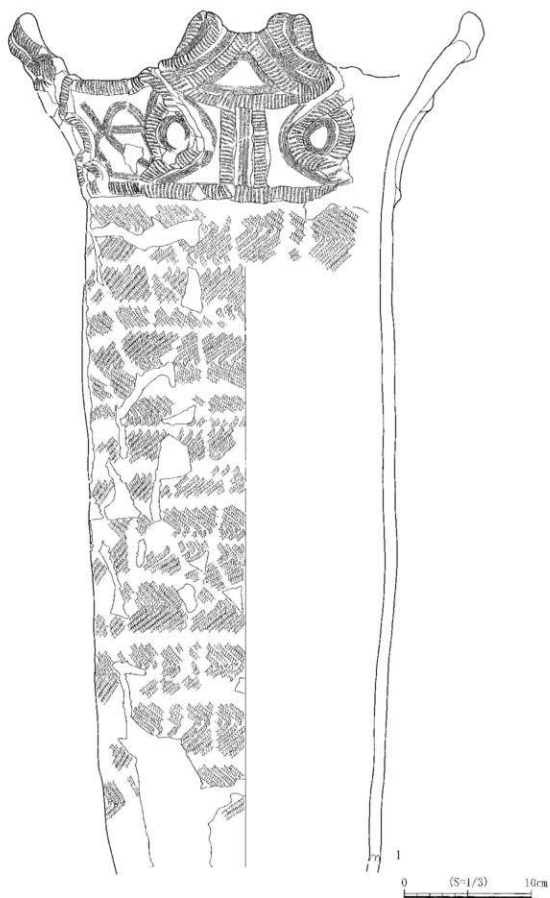
75圖 縄文土器 (69)



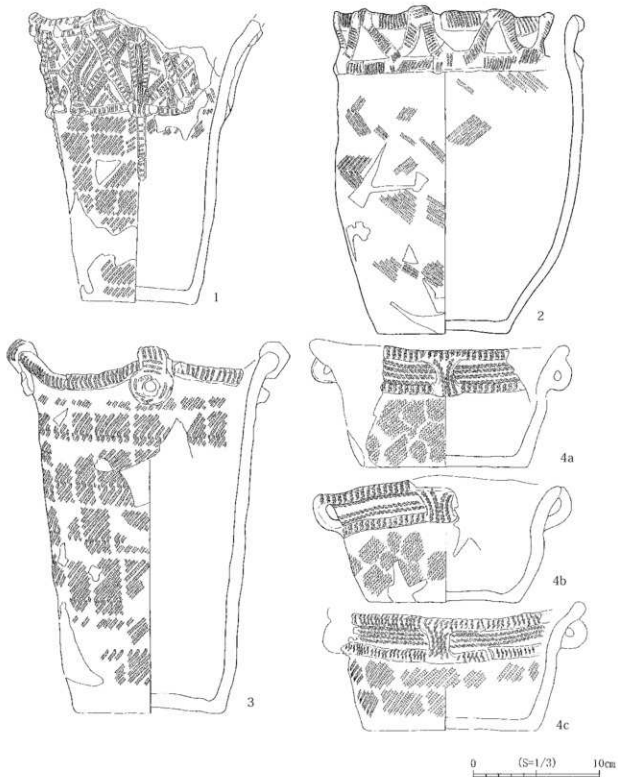
76図 縄文土器 (70)



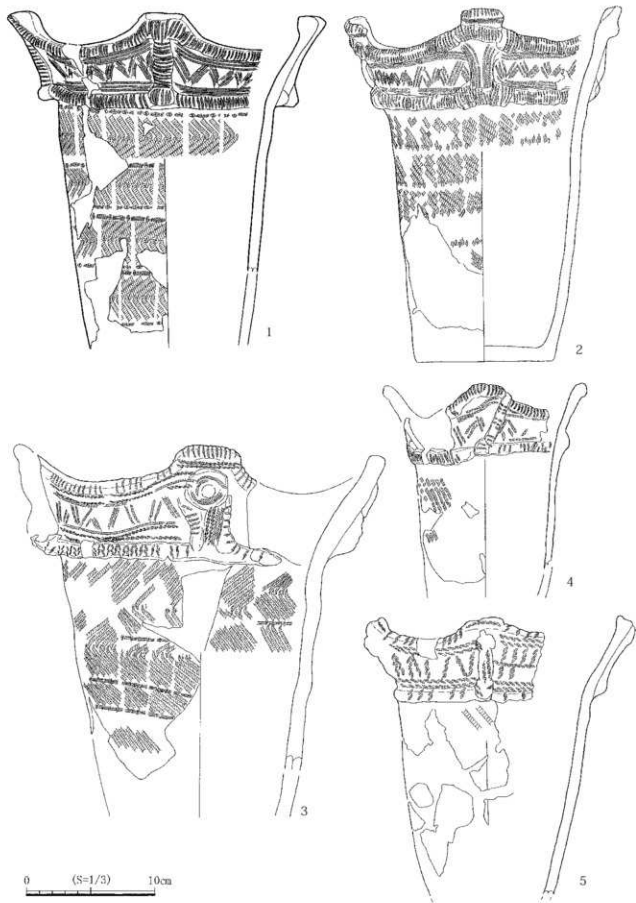
77図 縄文土器 (71)



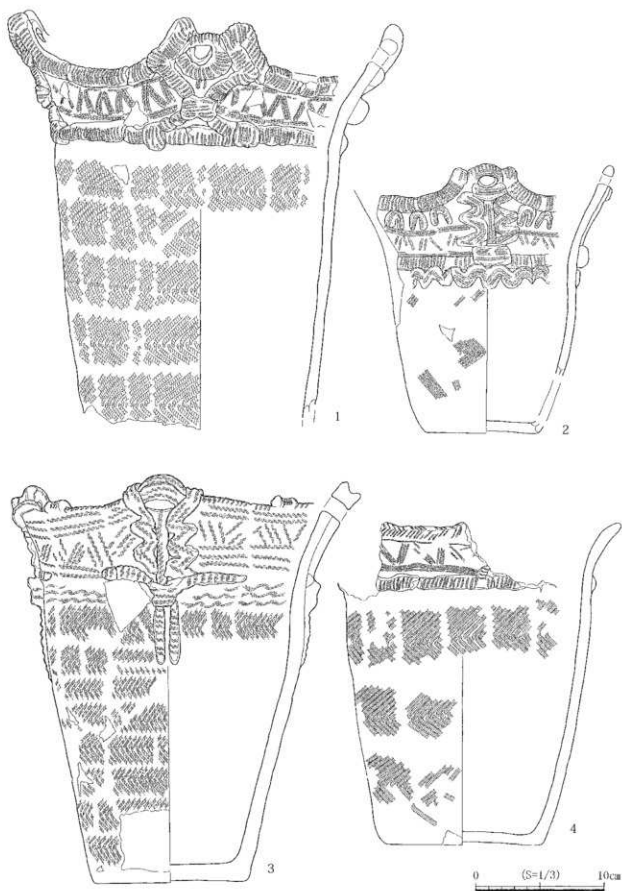
78図 縄文土器 (72)



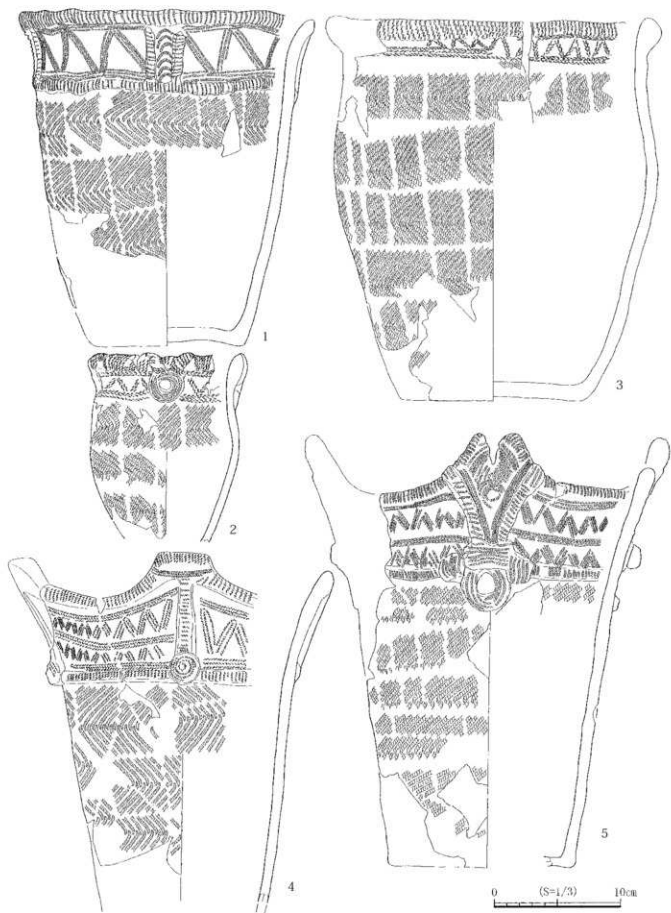
79図 縄文土器 (73)



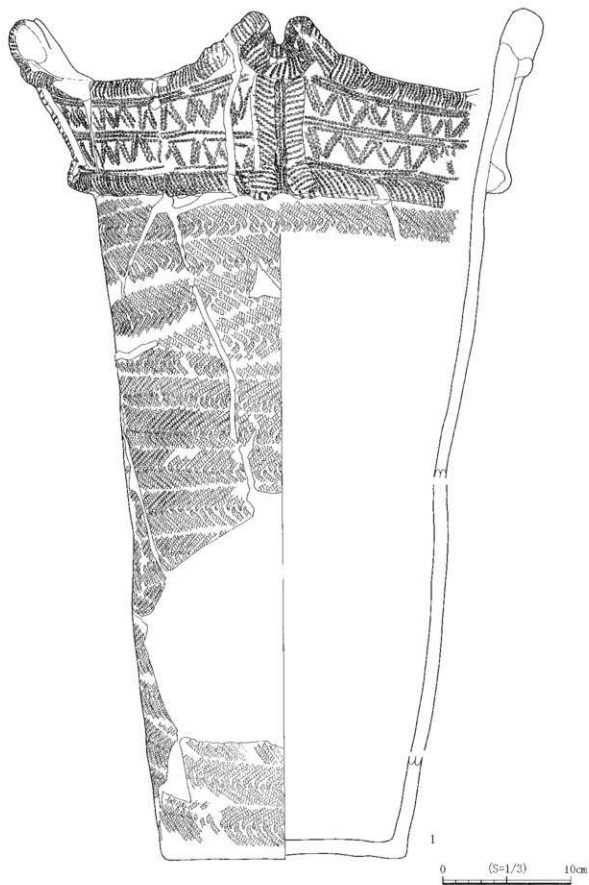
80圖 縄文土器 (74)



81圖 縄文土器 (75)



82図 縄文土器 (76)

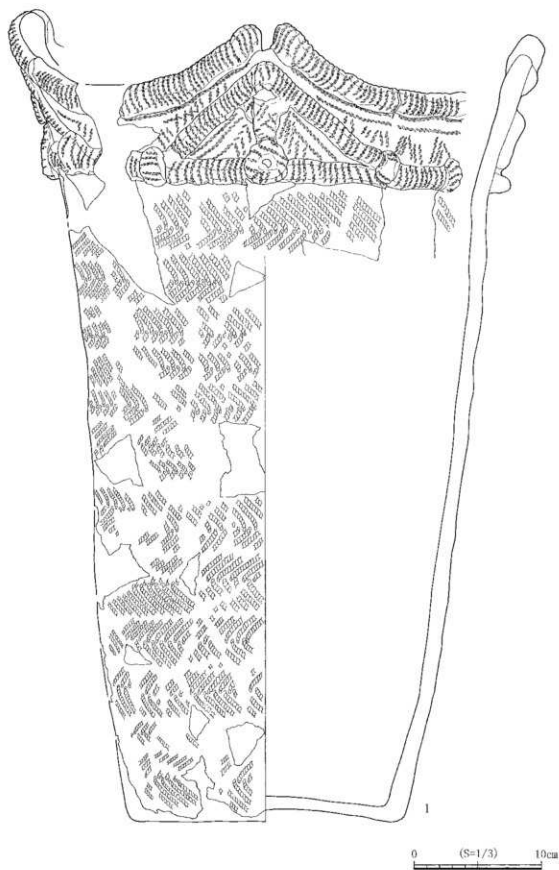


83圖 文土器 (77)

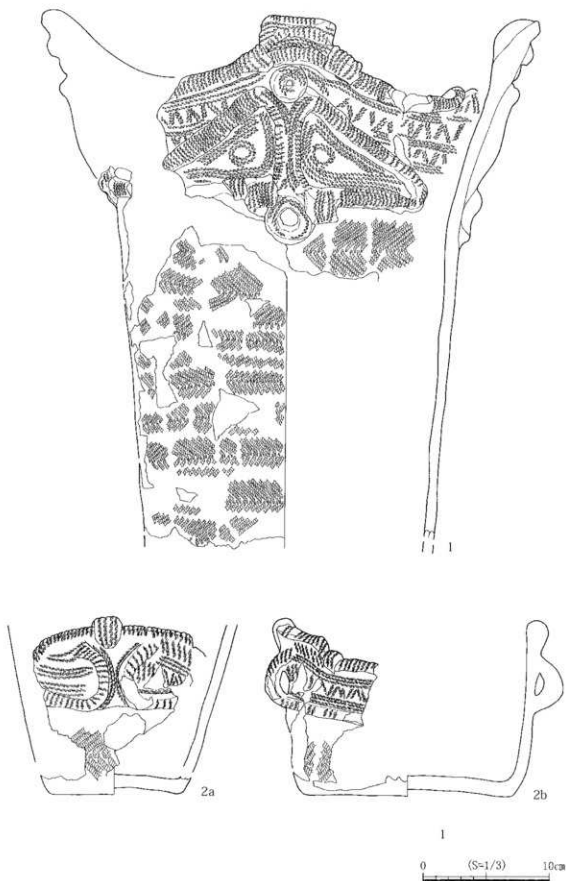


0 (S=1/3) 10cm

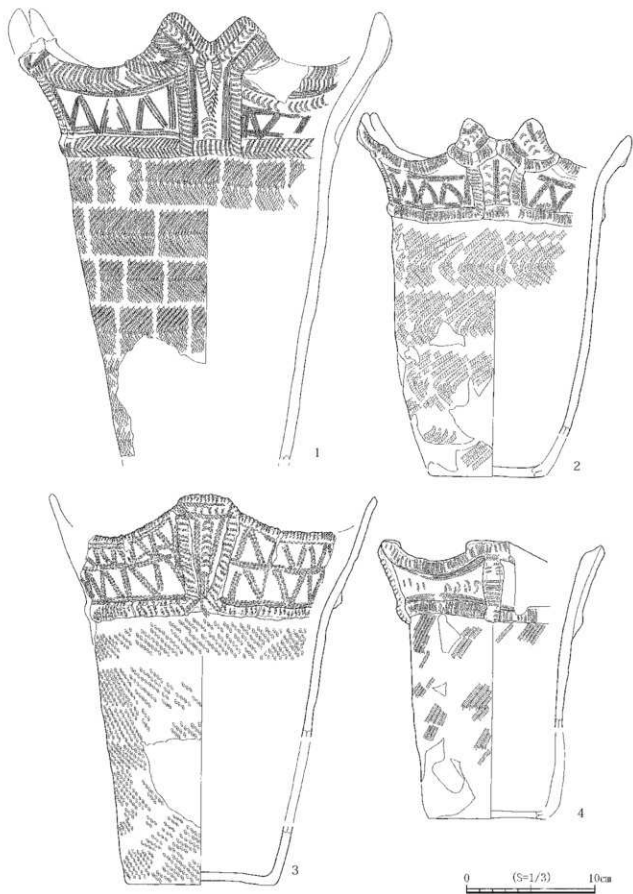
84図 縄文土器 (78)



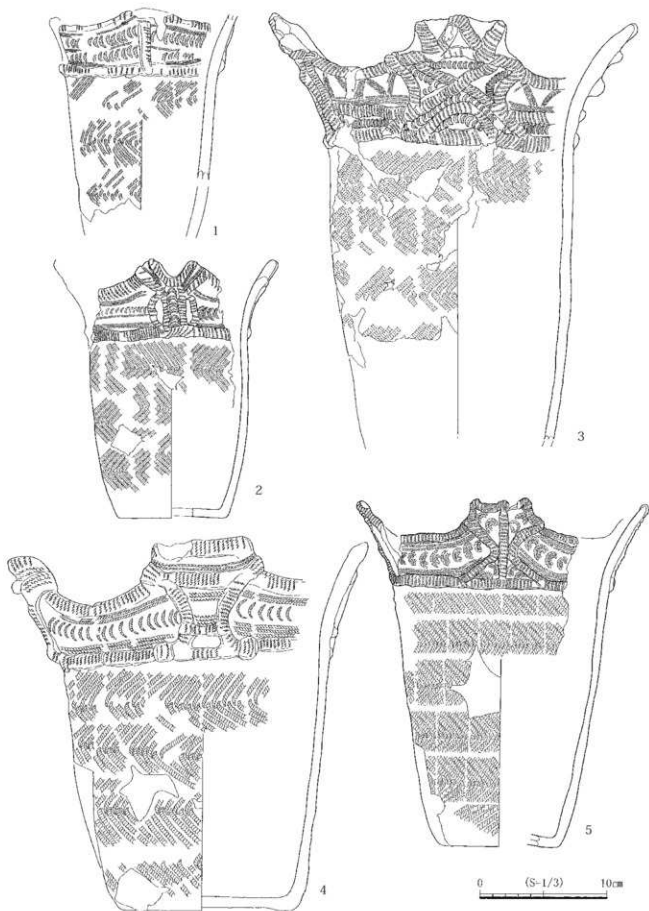
85圖 縄文土器 (79)



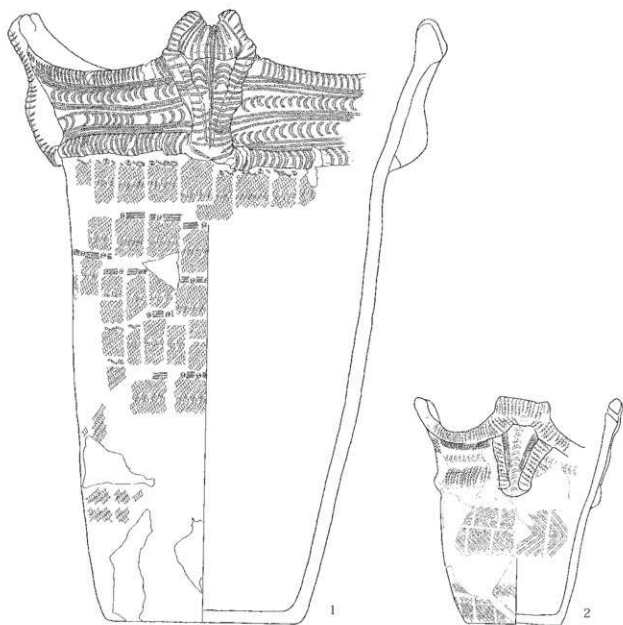
86圖 縄文土器 (80)



87図 縄文土器 (81)

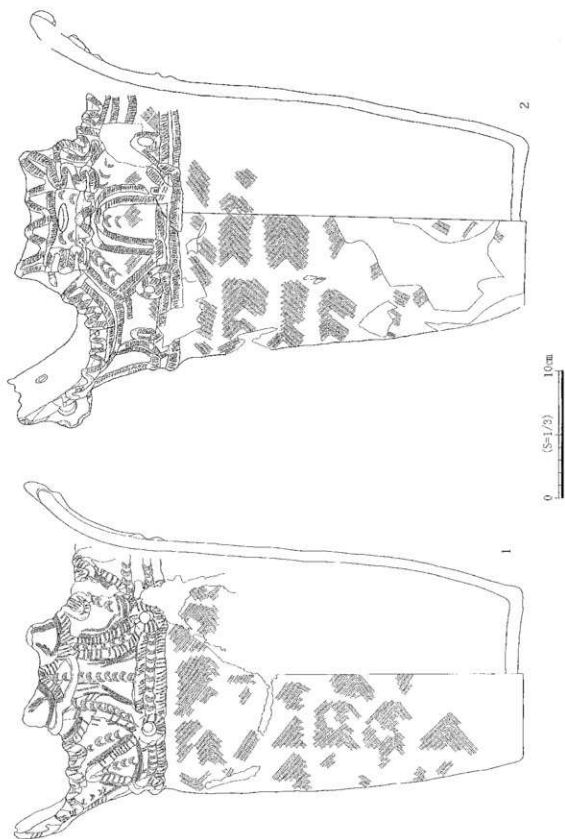


88図 縄文土器 (82)

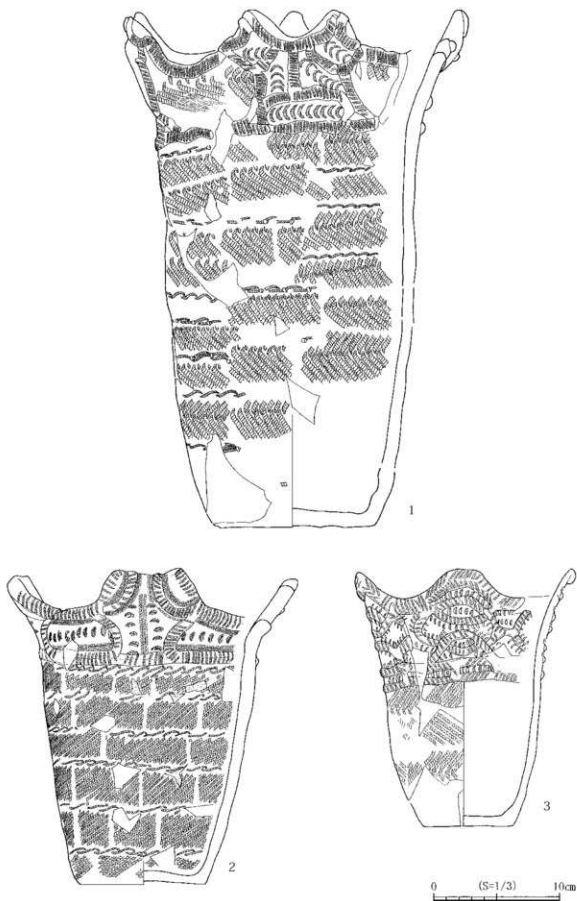


0 (S-1/3) 10cm

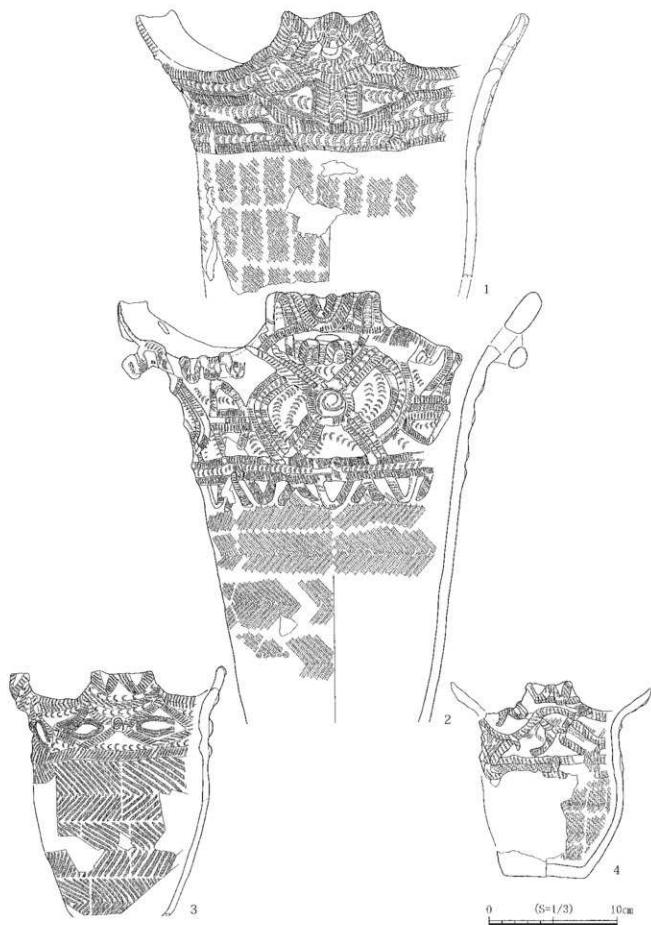
89圖 縄文土器 (83)



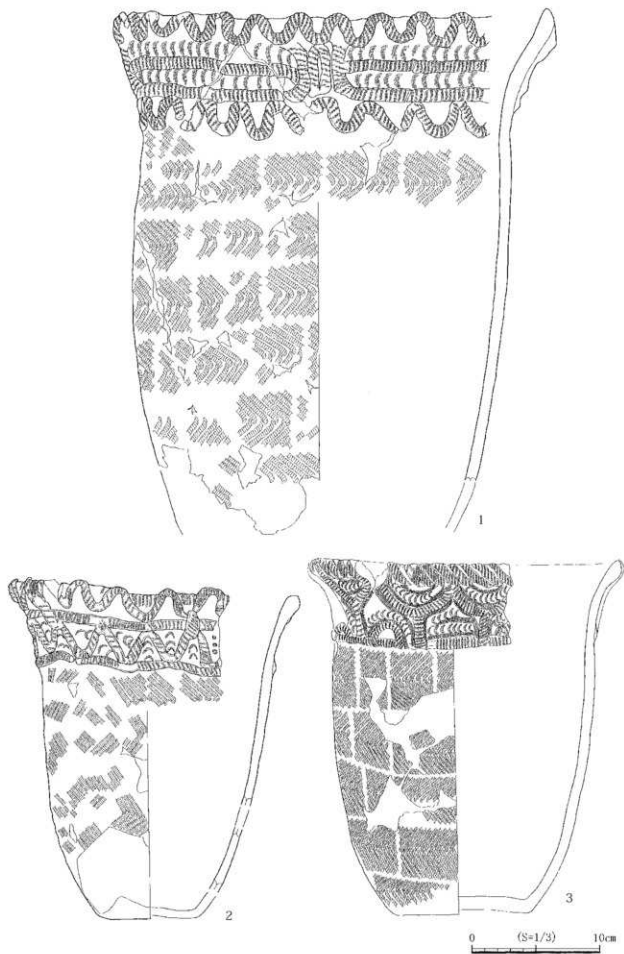
90圖 縄文土器 (84)



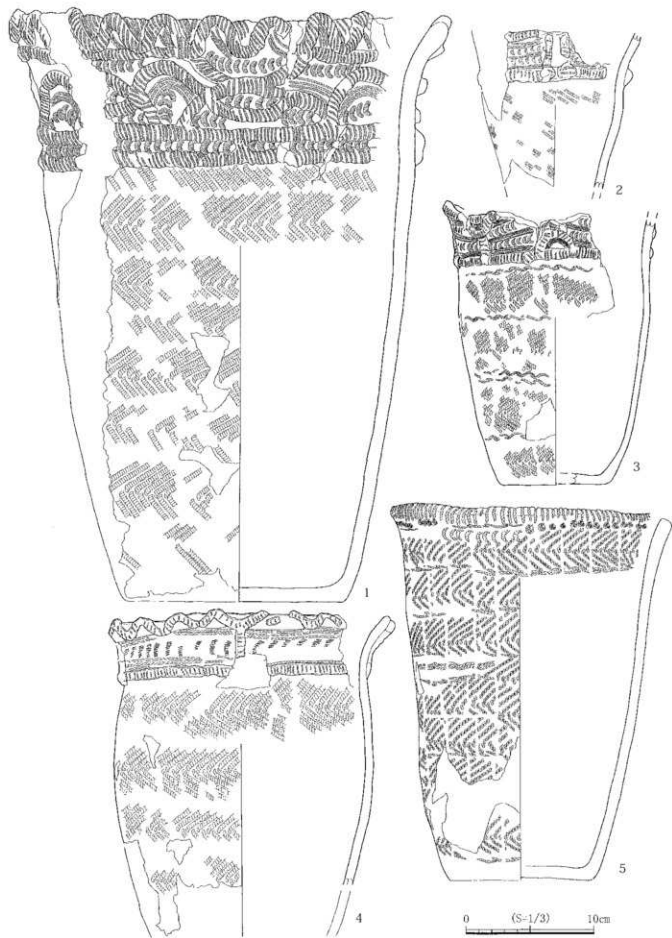
91圖 縄文土器 (85)



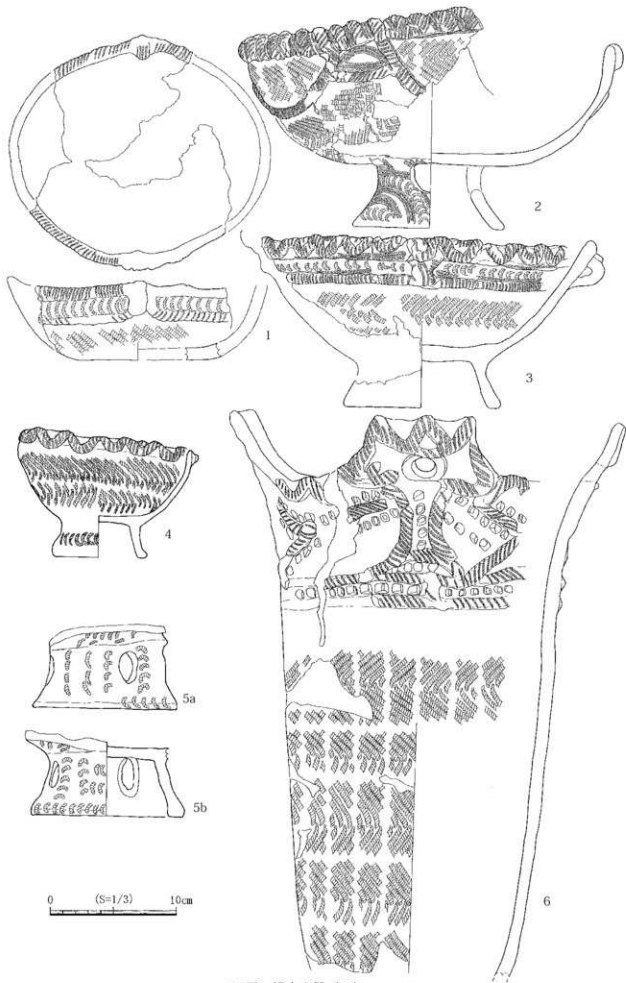
92圖 縄文土器 (86)



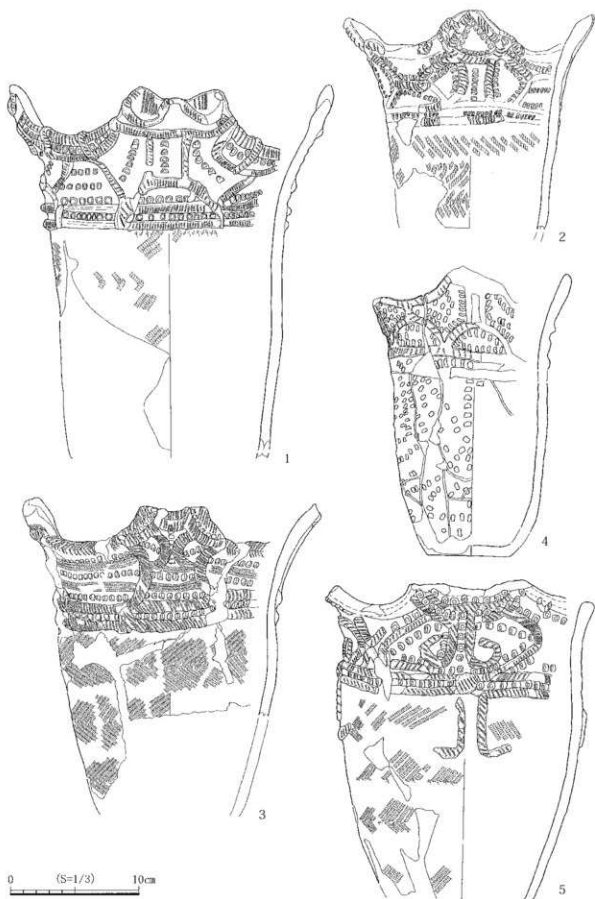
93圖 縄文土器 (87)



94図 縄文土器 (88)



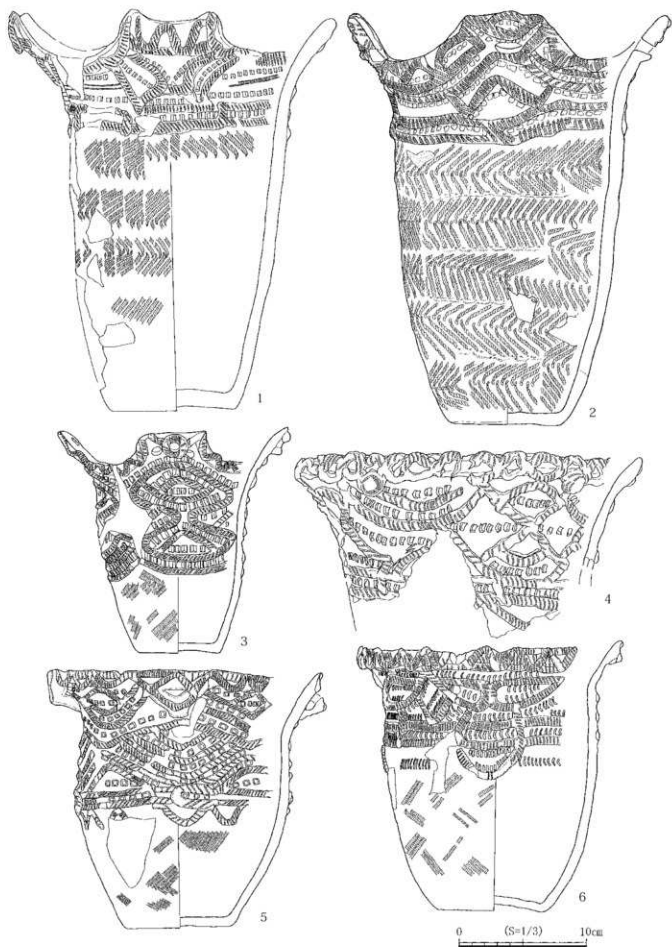
95圖 縄文土器 (89)



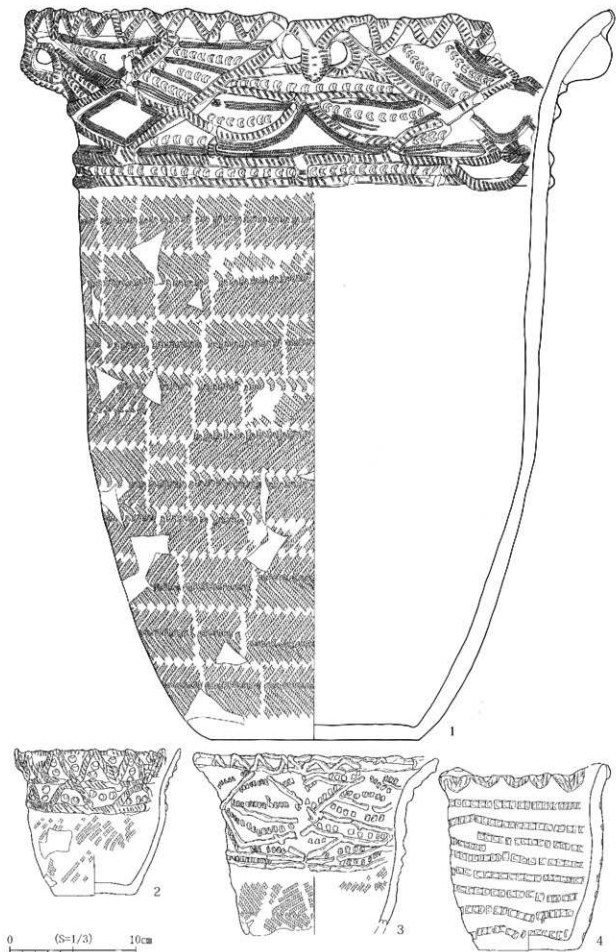
96図 縄文土器 (90)



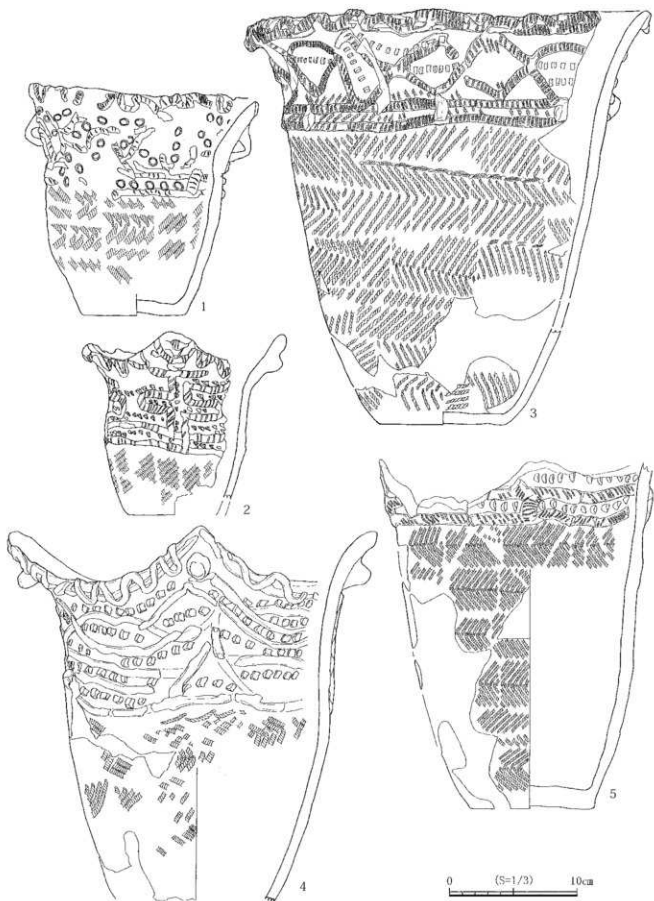
97図 縄文土器 (91)



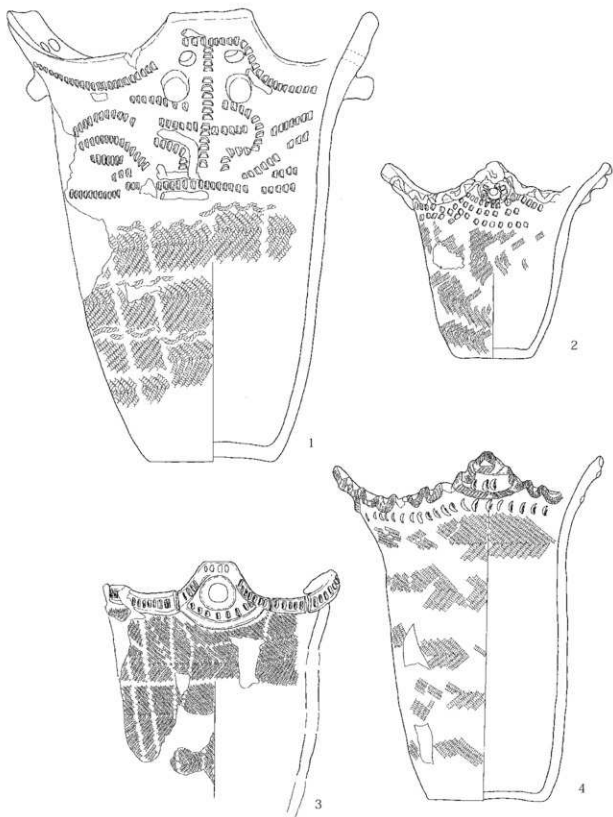
98圖 縄文土器 (92)



99圖 縄文土器 (93)

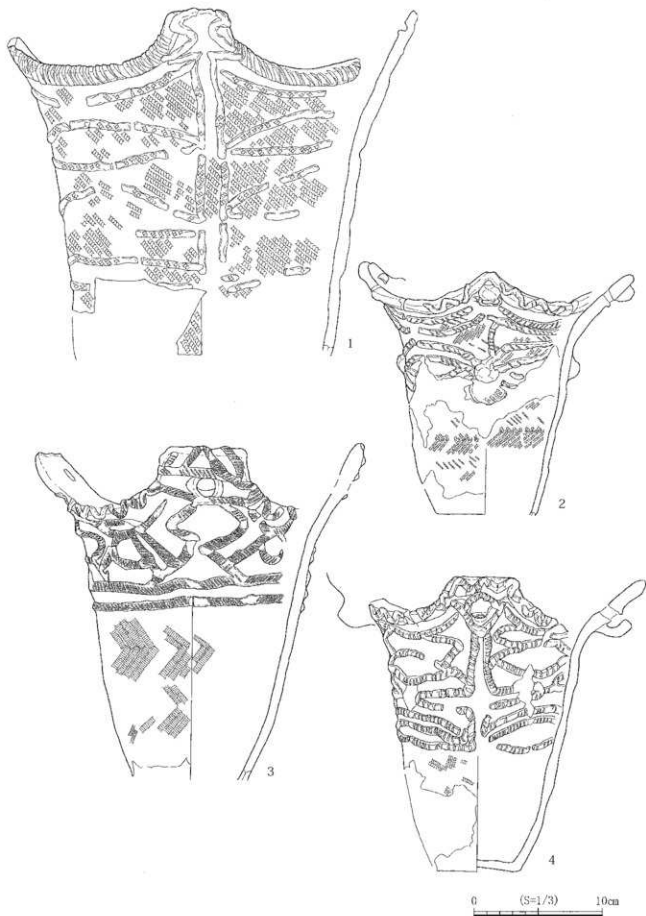


100図 縄文土器 (94)

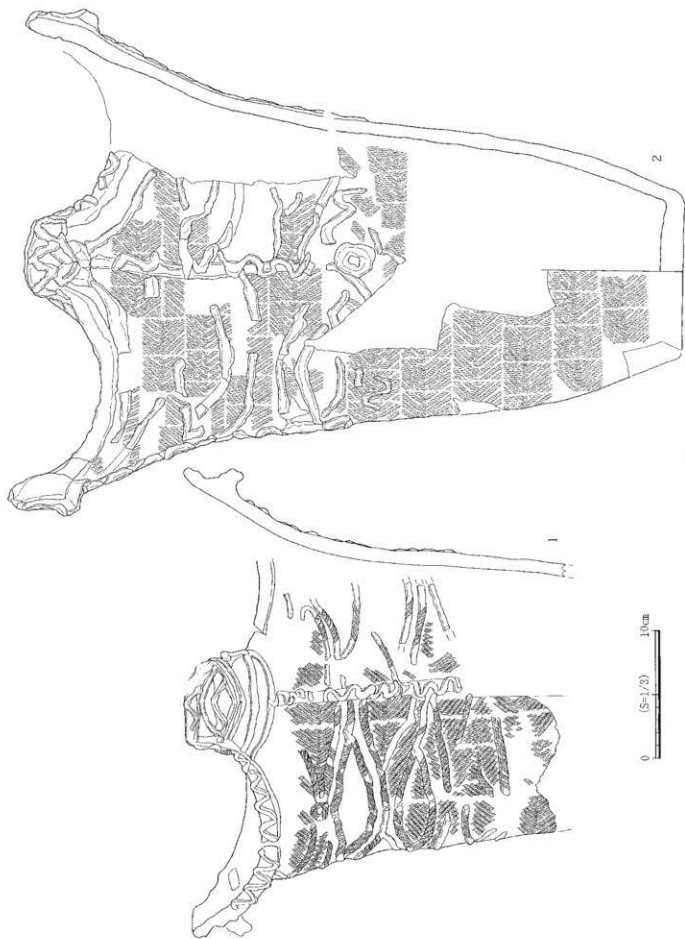


0 (S=1/3) 10cm

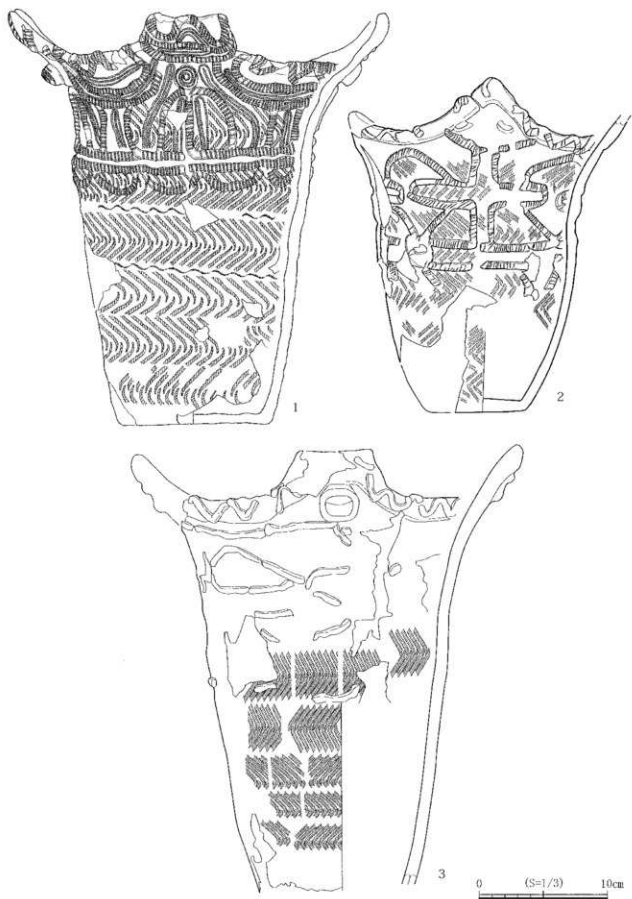
101図 縄文土器 (95)



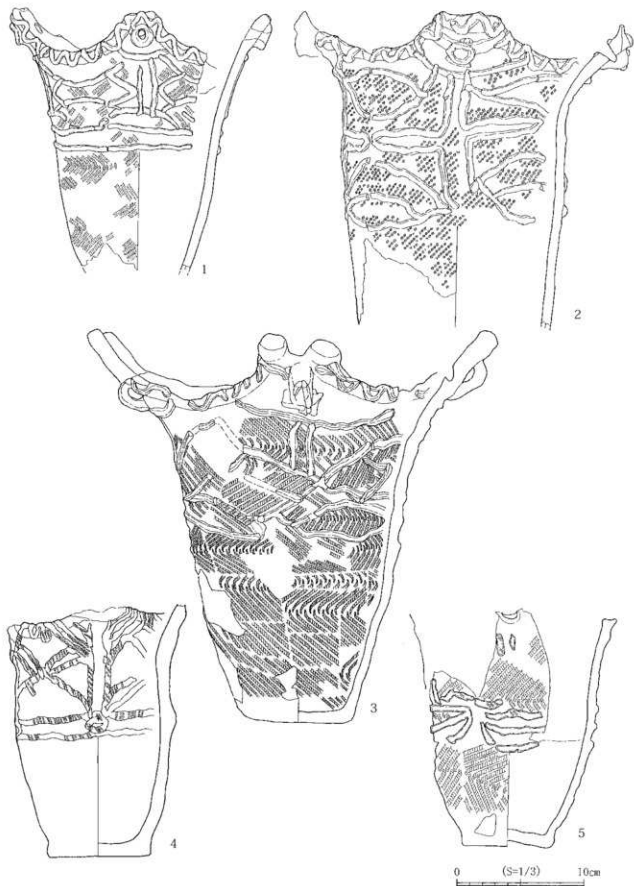
102図 縄文土器 (96)



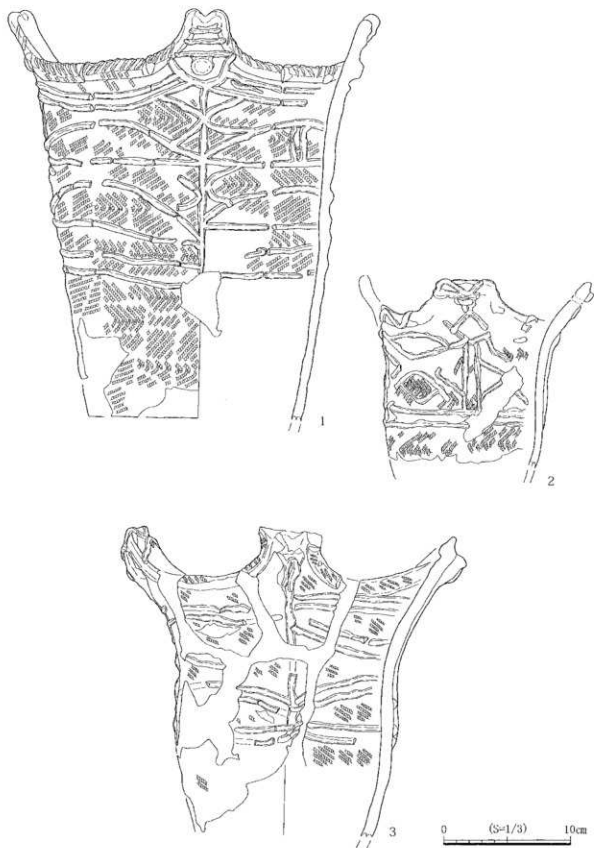
103図 縄文土器 (97)



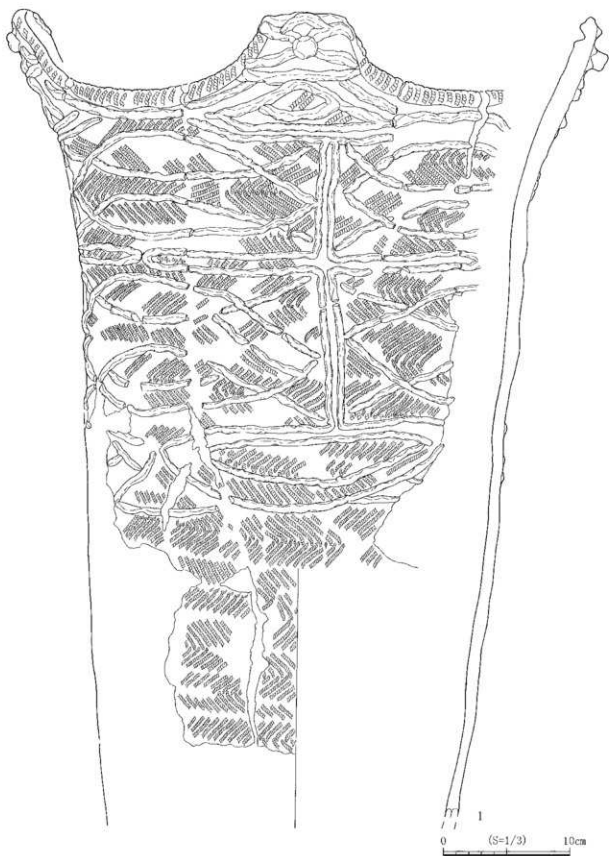
104図 縄文土器 (98)



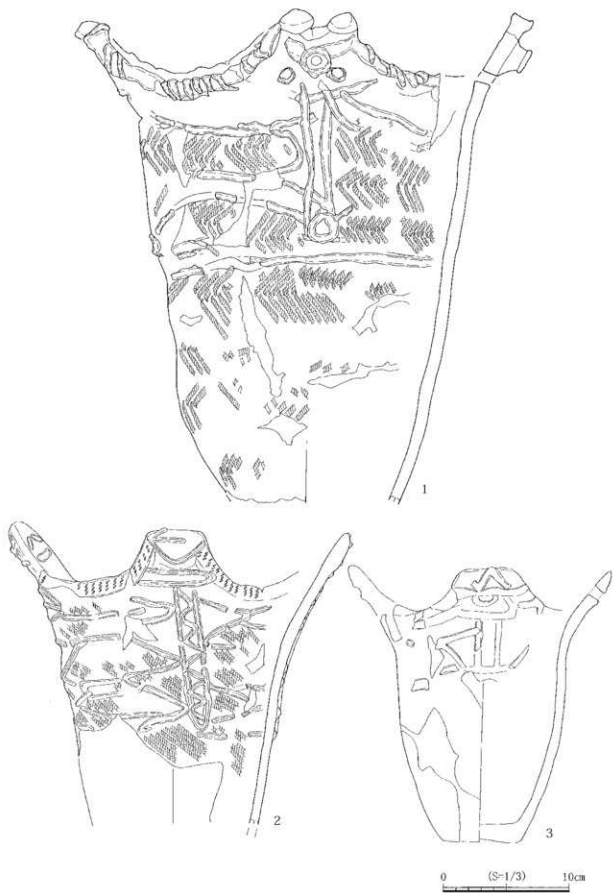
105図 縄文土器 (99)



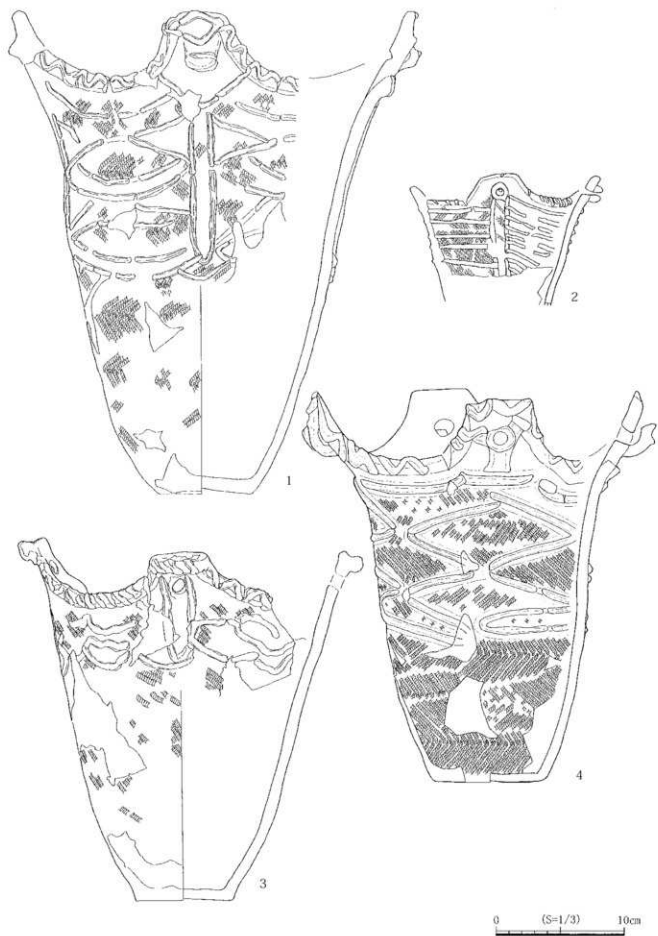
106圖 縄文土器 (100)



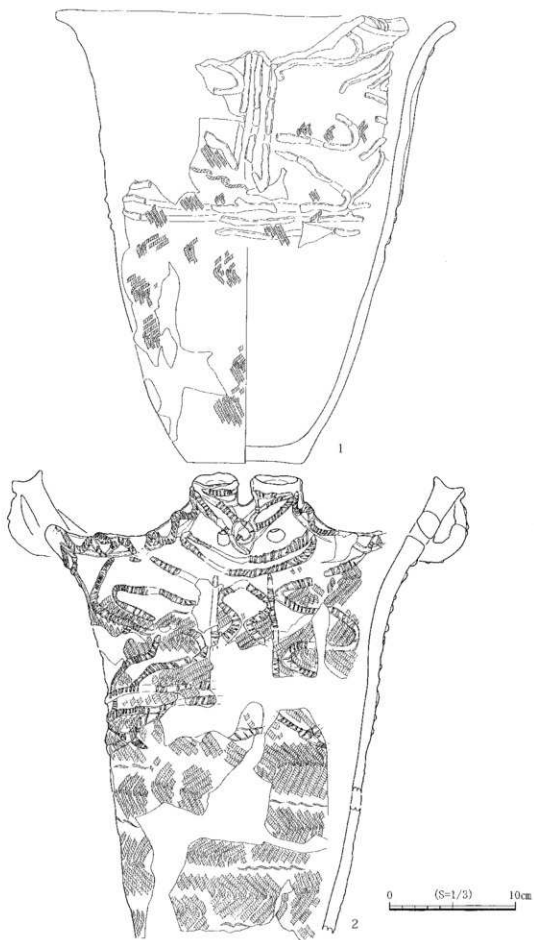
107図 縄文土器 (101)



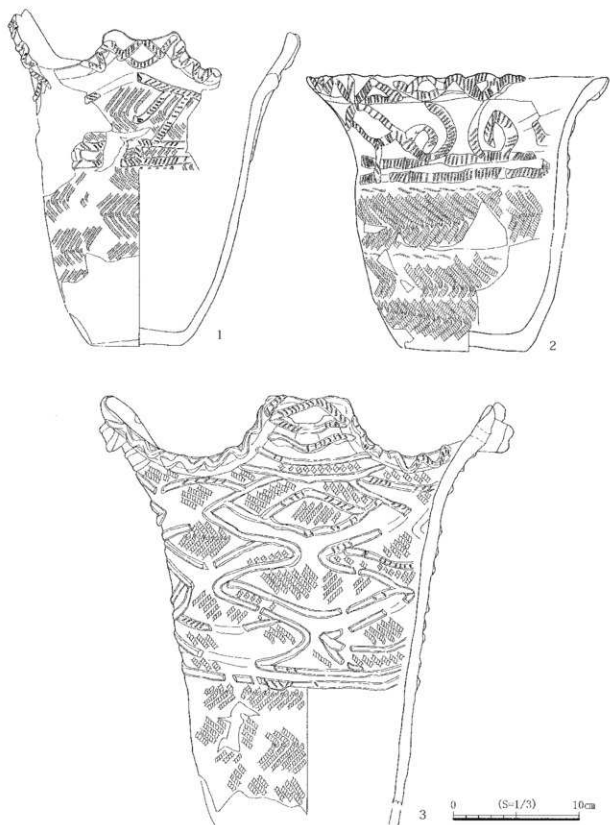
108図 縄文土器 (102)



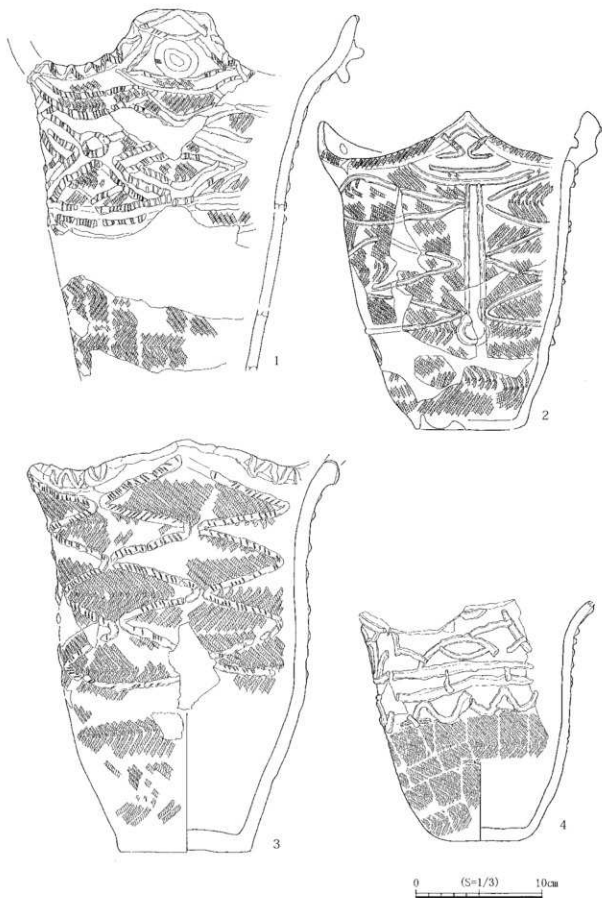
109圖 繩文土器 (103)



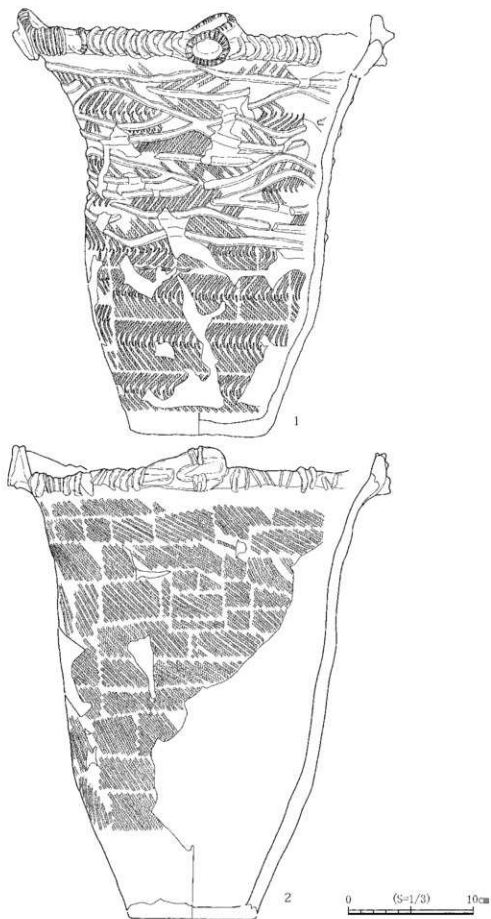
110圖 縄文土器 (104)



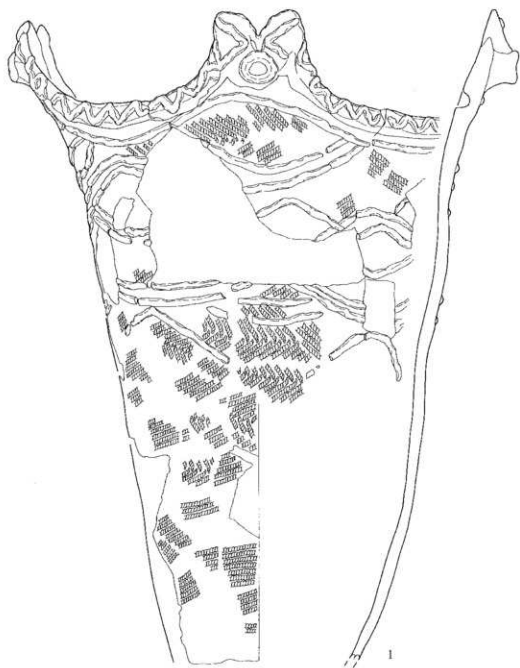
111圖 縄文土器 (105)



112図 縄文土器 (106)

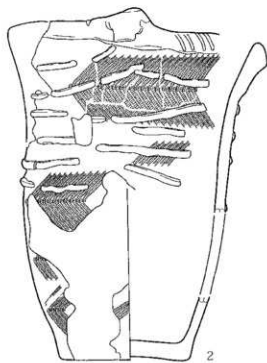


113図 縄文土器 (107)



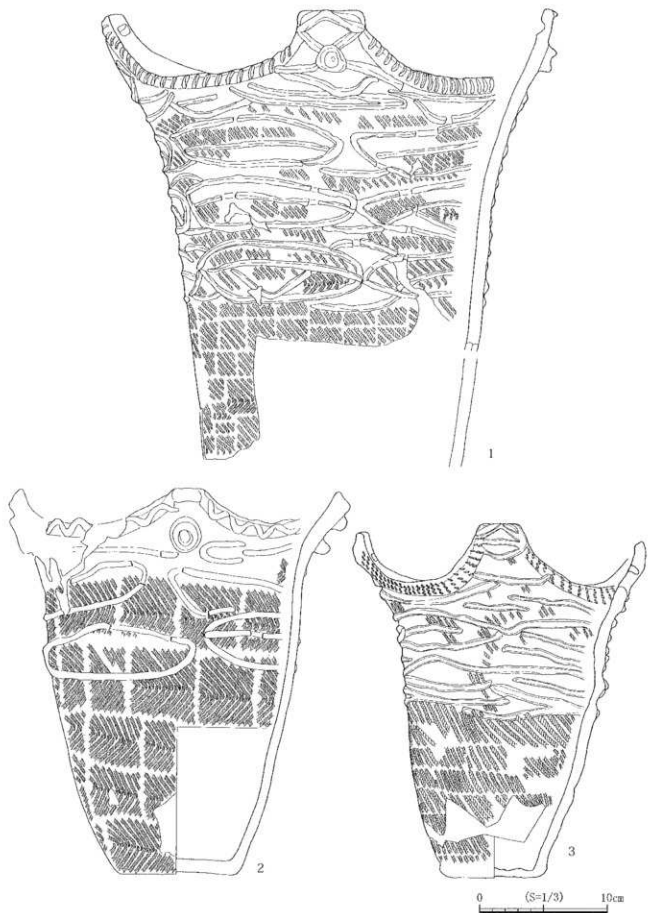
0 (S=1/3) 10cm

114図 縄文土器 (108)

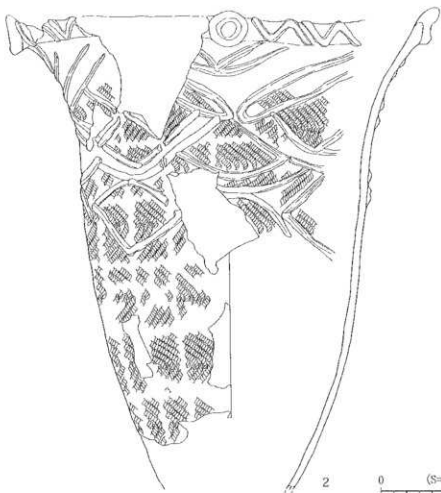
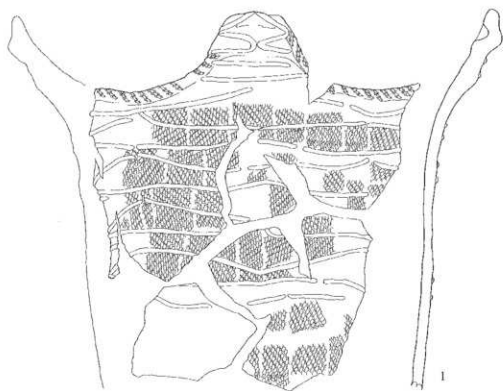


0 (S=1/3) 10cm

115圖 縄文土器 (109)



116圖 縄文土器 (110)

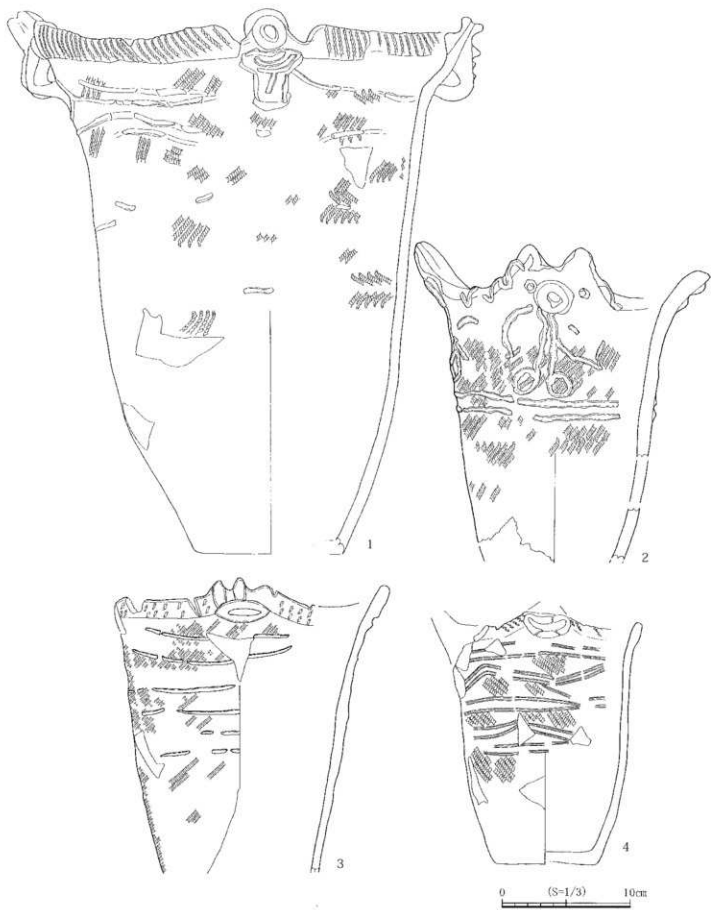


0 (S=1/3) 10cm

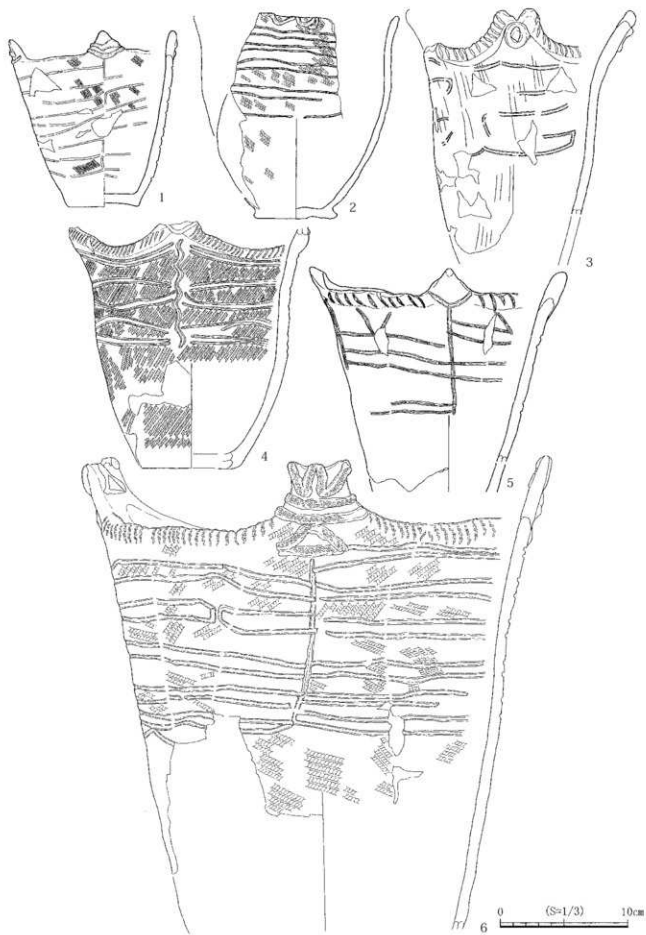
117圖 縄文土器 (111)



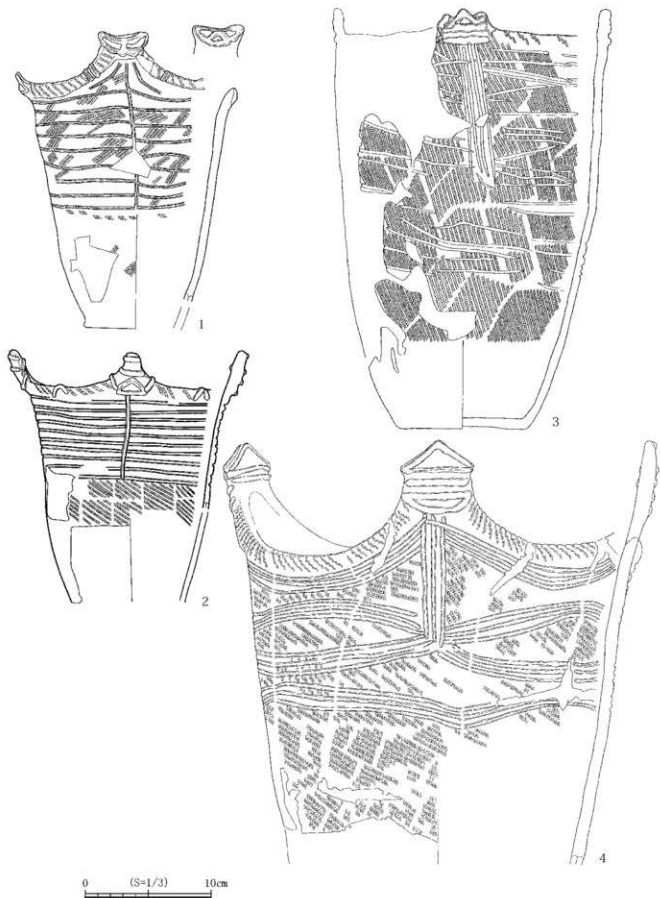
118図 文土器 (112)



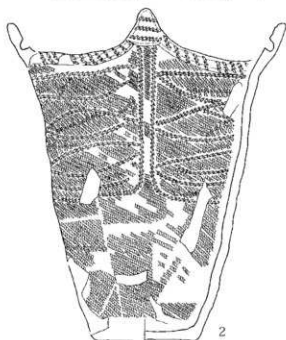
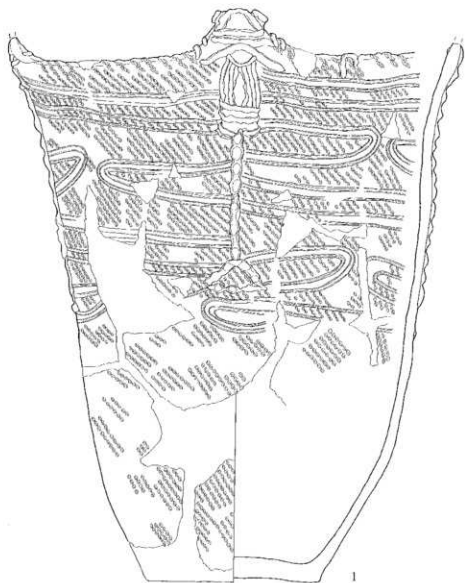
119圖 縄文土器 (113)



120圖 縄文土器 (114)

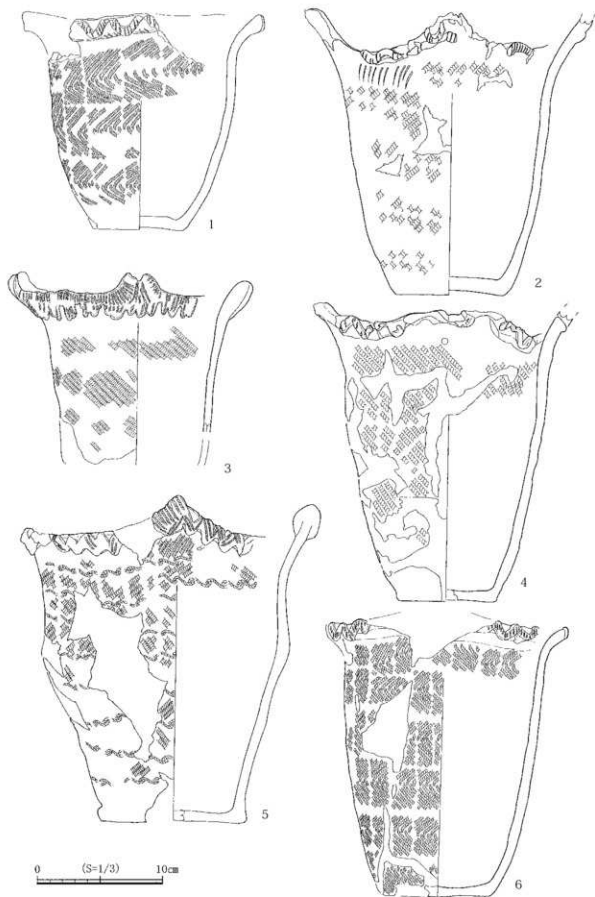


121図 文土器 (115)

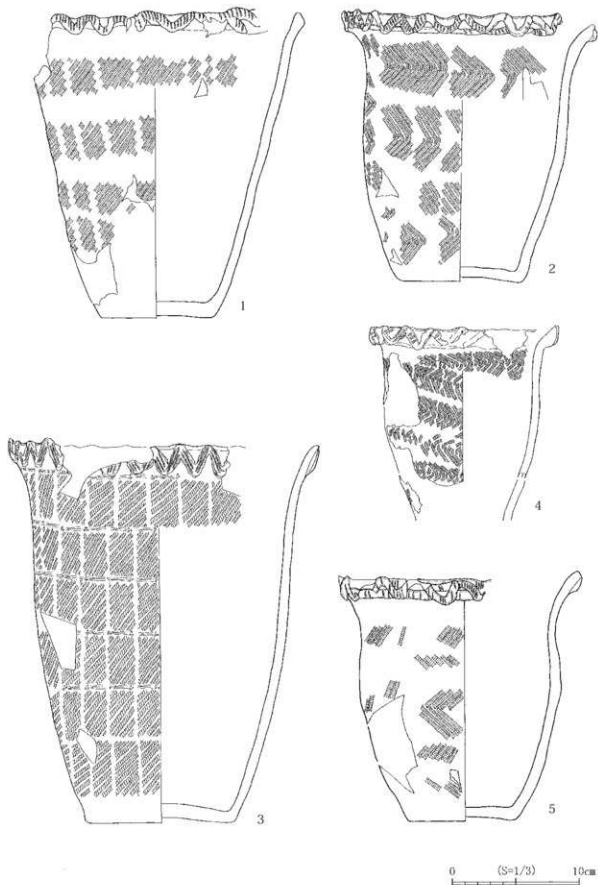


0 (S-1/3) 10cm

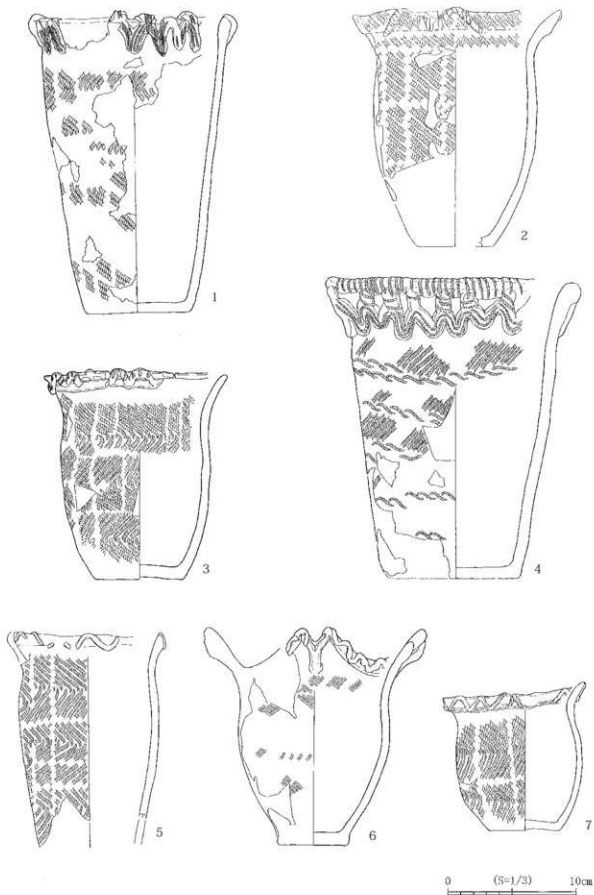
122図 縄文土器 (116)



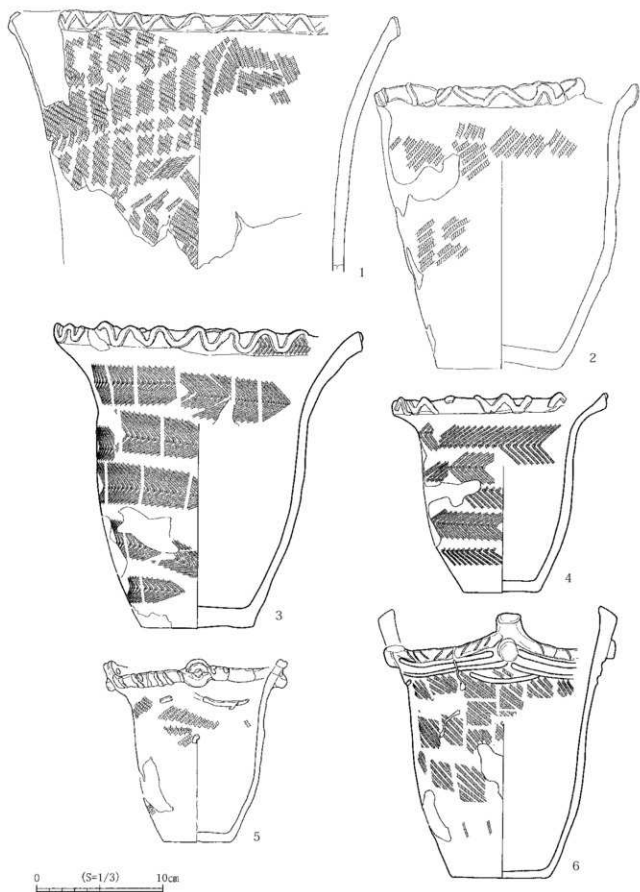
123図 縄文土器 (117)



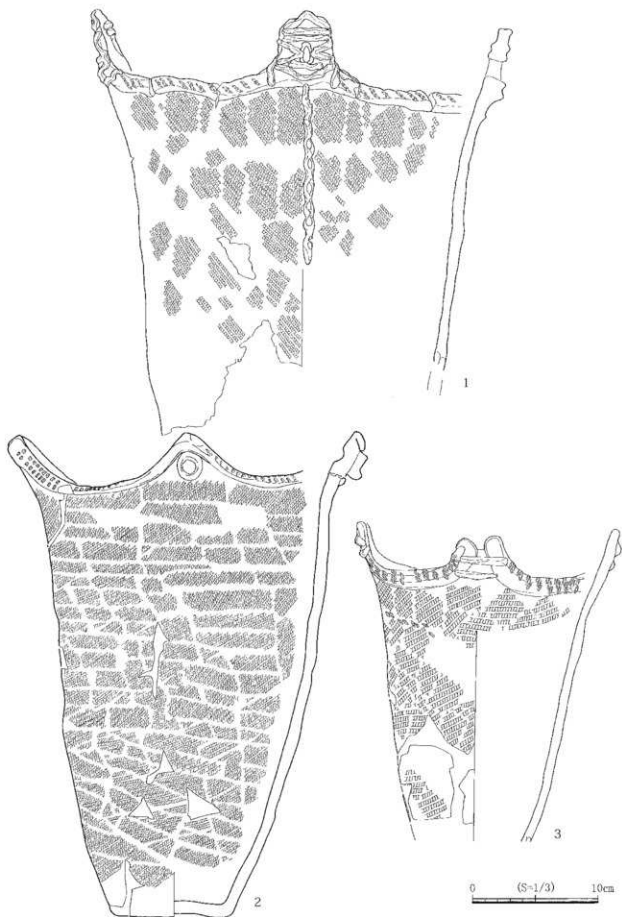
124図 縄文土器 (118)



125図 縄文土器 (119)



126図 縄文土器 (120)



127図 縄文土器 (121)